CODEN:HDNHFL
ISSN 1344-8897

弘前大学農学生命科学部学術報告

第18号

BULLETIN
OF THE
FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE HIROSAKI UNIVERSITY

No.18

付 研 究 業 績 目 録

2014年10月—2015年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science Hirosaki University
2014 (October)–2015 (September)

弘 前 大 学 農 学 生 命 科 学 部

2016年1月

FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE
HIROSAKI UNIVERSITY
HIROSAKI 036-8561, JAPAN

January, 2016

弘前大学農学生命科学部学術報告

第18号　　2016年1月

目　　次

杉山　修一・遠嶋　凪子：
自然栽培と慣行栽培野菜の化学成分の比較　1

平成26年度　あすなろ賞　7

研究業績目録（2014年10月―2015年9月）　13

自然栽培と慣行栽培野菜の化学成分の比較

杉山　修一・遠嶋　凪子

弘前大学農学生命科学部

（2015年11月11日受付）

緒論

自然栽培では土壌の栄養塩，特に窒素制限下で作物が栽培される。慣行栽培では，化学肥料を充分に与えるために，作物が窒素欠乏になることはまずない。有機栽培は化学肥料の投入は制限されるが，堆肥などの有機質由来の肥料はいくらでも投入できる。そのため，微生物による分解で栄養塩が土壌中に放出されるまでの時間がかかる有機質肥料は，早く肥効を求めるために必要以上の量を投与することが多く，しばしば慣行栽培より土壌が窒素過多になる場合がある。土壌に窒素が多く供給されると作物は必要量以上に窒素を吸収し，余った窒素は葉に硝酸態窒素として蓄積される。

慣行栽培や一部の有機栽培で作られた野菜は土壌の窒素過多のために硝酸態窒素を多く含むことが知られている。それに対して，自然栽培は家畜糞尿由来の窒素分の多い堆肥の使用も制限されるために，作物は窒素欠乏の状態で生育を強いられ，多量の硝酸態窒素が葉に蓄積することはない。硝酸態窒素は健康にも悪影響を与えるが，苦味をもたらす成分として農産物の食味も低下させる。硝酸態窒素以外に，イネでは玄米のタンパク質が食味を下げる大きな要因となっており，作物生育時の土壌の窒素条件は，広く農産物の食味に影響を与える可能性がある。実際に，自然栽培で作られた米や野菜，果実は慣行栽培のものにくらべて食味がよいという意見を聞くことが多いが，実際に自然栽培の農産物の食味成分を比較した研究はほとんどない。

食味を構成する要因は鮮度や食感など多岐にわたるが，食品に含まれる糖やアミノ酸，有機酸などの化学成分は食味に影響する大きな要因である。これまで，有機栽培と慣行栽培の農産物間の食味成分を比較した研究は多く，有機栽培では化学成分が変化するという報告例がある（1, 3）。しかし，食味成分は，生育時期，栽培地の土壌と気候条件，使われた品種の影響を強く受けるために，自然栽培と慣行栽培という栽培法の影響を明らかにするには，同じ品種を同じ時期に同じ場所で栽培法だけを変えて収穫された農産物を比較する必要がある。そこで，本研究では，青森県弘前市で13年間自然栽培を行っている成田陽一氏の圃場と近接する圃場で慣行栽培を行うことで，品種と栽培時期を揃えた農産物の食味成分を比較した。また，リンゴについては弘前市百沢地区のリンゴ園に自然栽培区を設け，リンゴの食味成分を比較した。本試験では，糖としてグルコース，フルクトース，スクロース，またアミノ酸としてグルタミン酸，有機酸としてリンゴ酸とクエン酸，その他硝酸態窒素とDPPHによる抗酸化能を測定した。

材料と方法

1．材料

使用した野菜の種類（括弧内は品種）は，コマツナ（ヨカッタナ），ブロッコリー（緑峰），トウモロコシ（きらきら85），キュウリ（ウドンコ強），枝豆（ゆあがり娘），トマト（招福パワー），馬鈴薯（アンデス，トウヤ），ナス（長者，緑ナス），ハクサイ，リンゴ（早生ふじ）である。ハクサイとリンゴ以外は，弘前市乳井で自然栽培を13年間継続している成田陽一氏の生産した野菜を使用した。また，対照として，成田陽一氏の圃場から100ｍほど離れた場所にある民間の市民農園（市民農園ナリタ）を借り，慣行栽培を行った。慣行栽培では，成田氏と同じ品種を栽培した。野菜の播種日または移植日は5月15日である。コマツナ，ブロッコリー，トウモロコシ，枝豆，ジャガイモは播種し，トマト，キュウリ，ナスは苗を移植した。慣行栽培の施肥量は，窒素，リン酸，カリウムを1ａ当たり3kg施用した（高度化成15-15-15）。収穫日はコマツナ6月25日，ブロッコリー7月8日，ナス，キュウリ7月16日，トマト，トウモロコシ，エダマメ，ジャガイモは8月4日である。

リンゴは弘前市百沢地区の自然栽培1年目のリンゴ園を使用した。このリンゴ園は，13年間無施肥で栽培されており，通常の半分以下の農薬を使用している減農薬栽培である。リンゴ園の面積80aのうち10aを無農薬で栽培し，自然栽培区とした，隣接する減農薬リンゴ園を対

照として使用した。ハクサイは，弘前市の葛原地区で栽培された自然栽培農家産のものを用い，対照として市販のキャベツを用いた。

収穫したサンプルは直ちに冷凍保存し，測定前に凍結乾燥し，乾燥サンプルを粉砕器で微粉砕し，粉砕後に得られた粉末試料を実験に用いた。

2．分析方法

(1) 抽出

0.1gの粉砕試料を2mlのエッペンチューブに入れた後，蒸留水1.5mlを加え，10〜15分振とう抽出後，15000rpm，10分の遠心で試料を沈殿させた後，ピペットで上清を新しいピペットに移した。残渣に水を加え，同じ操作を3回繰り返し，抽出した上清を25mlに定容し，この液を試料として分析に用いた。

(2) 糖分析

抽出液を糖分析用カラム（8 mm × 300 mm; Ionopak KS802, Shodex Co. Ltd, 東京）を装着した高速液体クロマトグラフィー（Lachrom, 日立，東京）で分析した。分析条件はカラム温度50℃，移動相に超純水，送液速度1ml/分である。検出されたピークは市販の標準試料のリテンションタイムから同定した。今回の試験では，含有量の多かったグルコース，フルクトース，スクロースについて測定した。濃度の異なる標準試料から得られたピーク面積と濃度の関係から検量線を作成し，各試料の濃度を計算した。

(3) グルタミン酸，リンゴ酸，クエン酸

測定にFキット（J.K.インターナショナル株式会社）を使用した。測定は，マニュアルに従い，比色したサンプルの吸光度を分析した。

(4) 抗酸化能

本実験では1, 1-diphenyl-2-picrylhydrazyl（DPPH）によるラジカル消去活性を求めた。DPPH法は，ラジカルとして人工的に作成したDPPH溶液に試料を添加し，その後の吸光度の変化から試料の抗酸化能を評価する方法である。DPPH15.8mgをエタノール100mlで溶解し400μMのDPPH溶液を作成した。このDPPH溶液0.9mlと200mMのMES溶液0.9ml，エタノール0.6ml，蒸留水0.3mlを混合し，これに試料を加えて測定を行った。DPPH測定試薬2.7mlに蒸留水を300μl，200μl，150μl，0mlの順に加え，これに30秒おきに試料をチューブに0μl，100μl，150μl，300μl加えて3mlの反応液とした。各反応液を混合後20分間暗所へ保存し，30秒後に520nmの波長で分光光度計での吸光度を測定した。また，検量線は5mMアスコルビン酸溶液を0μl，10μl，50μl，150μl添加した後作成した。

(5) 硝酸態窒素

サリチル酸を用いた比色法により測定した。サリチル酸5gに濃硫酸約100ml加えて充分混合した。NaOH80gを蒸留水に加えて充分混合し，1Lの溶液を作成した。試料0.5mlを試験管に取り，氷水中で放冷し，5％サリチル酸硫酸溶液0.4mlを加えて混合後，試験管に蓋をし，あらかじめ70℃に調節したウォーターバスで20分間加熱した。放冷後，2M NaOH10mlを加え混合し，再度放冷した後，405nmの吸光度を測定した。NO_3-N標準液（0，0.5，1.0，3.0ppm）も同じ操作で発色させ405nmの吸光度を測定し，検量線を作成した。

結果

作物と栽培法を要因とする二元配置分散分析の結果を表1に示した。すべての分析値で作物間に有意差が見られた。しかし，栽培法では，グルコース，グルタミン酸，リンゴ酸，硝酸態窒素に有意差が見られた。自然栽

第1表　栽培法と作物種を2要因とする各栄養成分の二元配置分散分析

	栽培法	作物種	栽培法×作物
グルコース	***	***	*
フルクトース		***	
スクロース		***	**
グルタミン酸	***	***	***
リンゴ酸	***	***	***
クエン酸		***	***
抗酸化能（DPPH法）		***	***
硝酸態窒素	***	***	***

*，**，***はそれぞれ5%，1%　0.1%水準で有意であることを示す。

培野菜では，グルコース，グルタミン酸，リンゴ酸の濃度が高くなる一方，硝酸態窒素の濃度は低下した（図1）。

一方，フルクトースを除き，作物と栽培法の間に有意な相互作用があり，作物により成分濃度が大きく異なることを示している。図2には各作物の自然栽培と慣行栽培における成分濃度を示した。各作物の特徴は下記の通りである。キュウリでは，自然栽培のグルコース濃度が慣行栽培に比べ有意に高くなった。コマツナでは，自然栽培がグルコース，グルタミン酸，リンゴ酸で慣行栽培により有意に高くなった。トウモロコシではグルコースとスクロースが自然栽培で高くなっているが，グルタミン酸や有機酸には差が見られなかった。トマトでは，特にグルタミン酸の含有量が自然栽培で高くなった。ハクサイはグルコース，スクロース，リンゴ酸が自然栽培で高くなり，硝酸態窒素は慣行栽培に比べ著しく低かった。ナス，ブロッコリー，枝豆，馬鈴薯については自然栽培と慣行栽培でどの成分にも有意差は見られなかった。リンゴは，自然栽培ではグルコースが有意に高くなるがスクロースは低くなり，抗酸化能は高くなった。

論議

本研究で，調査した成分は甘み成分である可溶性の還元糖（グルコース，フルクトース，スクロース）と旨味成分であるグルタミン酸，酸味をもたらすリンゴ酸とクエン酸である。また，食味にマイナスの影響を与える硝酸態窒素，健康に良い影響を与える抗酸化能（DPPHラジカル消去能）も調査した。二元配置分散分析の結果，自然栽培ではグルコースとグルタミン酸が有意に高くなり，硝酸態窒素が有意に低くなった。成分含有量の結果から自然栽培の野菜が一般に甘みと旨味成分を多く含む傾向が示され，自然栽培野菜が美味しいという意見を裏付けた。

植物の細胞分裂は土壌窒素が低い場合に抑制される(2)。その結果，細胞数の不足により果実や葉などの器官の数と大きさが制限されるため細胞壁などを構成する構造性炭水化物の需要が減り相対的に器官内に蓄積する可溶性糖の濃度が上がることが糖含有量増加の一つの要因と考えられる。つまり，自然栽培では窒素不足で作物の生育が抑制され，結果として糖やアミノ酸が生長に使われずに，余剰となって収穫器官に蓄積されることでうま味を向上させる可能性である。

しかし，自然栽培野菜でグルコースやグルタミン酸などが増加する傾向は認められたが，増加のパターンは作物間で大きく異なった。特に，スクロースはトウモロコシでは高くなったが，リンゴでは有意に低下し，その他の野菜ではほとんど差が見られなかった。したがって，自然栽培による野菜の化学成分への影響は作物ごとに調べる必要がある。

今回の調査では，抗酸化能を調査した。自然栽培が抗酸化能を向上させるという一般的傾向は見られなかったが，リンゴでは自然栽培が有意に高い抗酸化能を示した。今回調査したリンゴでは，慣行栽培も13年間無肥料で栽培され続けており，自然栽培と慣行栽培の差は肥料より農薬散布の有無である。自然栽培ではほとんどの葉がリンゴの主要な病害である黒星病，斑点落葉病，褐班病などの病斑が見られた。病原菌を含め多くの微生物に曝されることで，リンゴの病害抵抗性が向上し，抗酸化能が向上した可能性が考えられるが，これについては今後の調査が必要である。

以上の結果から，成分量の変化は作物による違いが大きく，自然栽培が野菜の美味しさに影響するかどうかは作物により大きく異なった。しかし，自然栽培で作られた野菜が美味しいという評価は，糖やアミノ酸，有機酸が増加し，硝酸態窒素が減少するという一般的傾向からある程度裏付けられた。

謝辞

本研究を行うにあたり，調査にご協力いただいた弘前市在住の自然栽培野菜生産者，成田陽一氏に感謝いたします。また，試料の凍結乾燥とDPPH分析に農学生命科学部の前田隼人助教には多大なご協力をいただき，あわせて謝意を表します。

引用文献

1. Wang SY., Chen CT., Sciarappa W., Wang CY. and Camp MJ. (2008) Fruit quality, antioxidant capacity, and flavonoid content of organically and conventionally grown blueberries. Journal of Agricultural and Food Chemistry, 56: 5788–5794
2. Sugiyama S. and Gotoh M. (2010) How meristem plasticity in response to soil nutrients and light affects plant growth in four *Festuca* grass species. New Phytologist 185: 747–758
3. Balisteiro DM., Rombaldi C. and Genovese M. (2013) Protein, isoflavones, trypsin inhibitory and in vitro antioxidant capacities: Comparison among conventionally and organically grown soybeans. Food Research International. 51: 8–14.

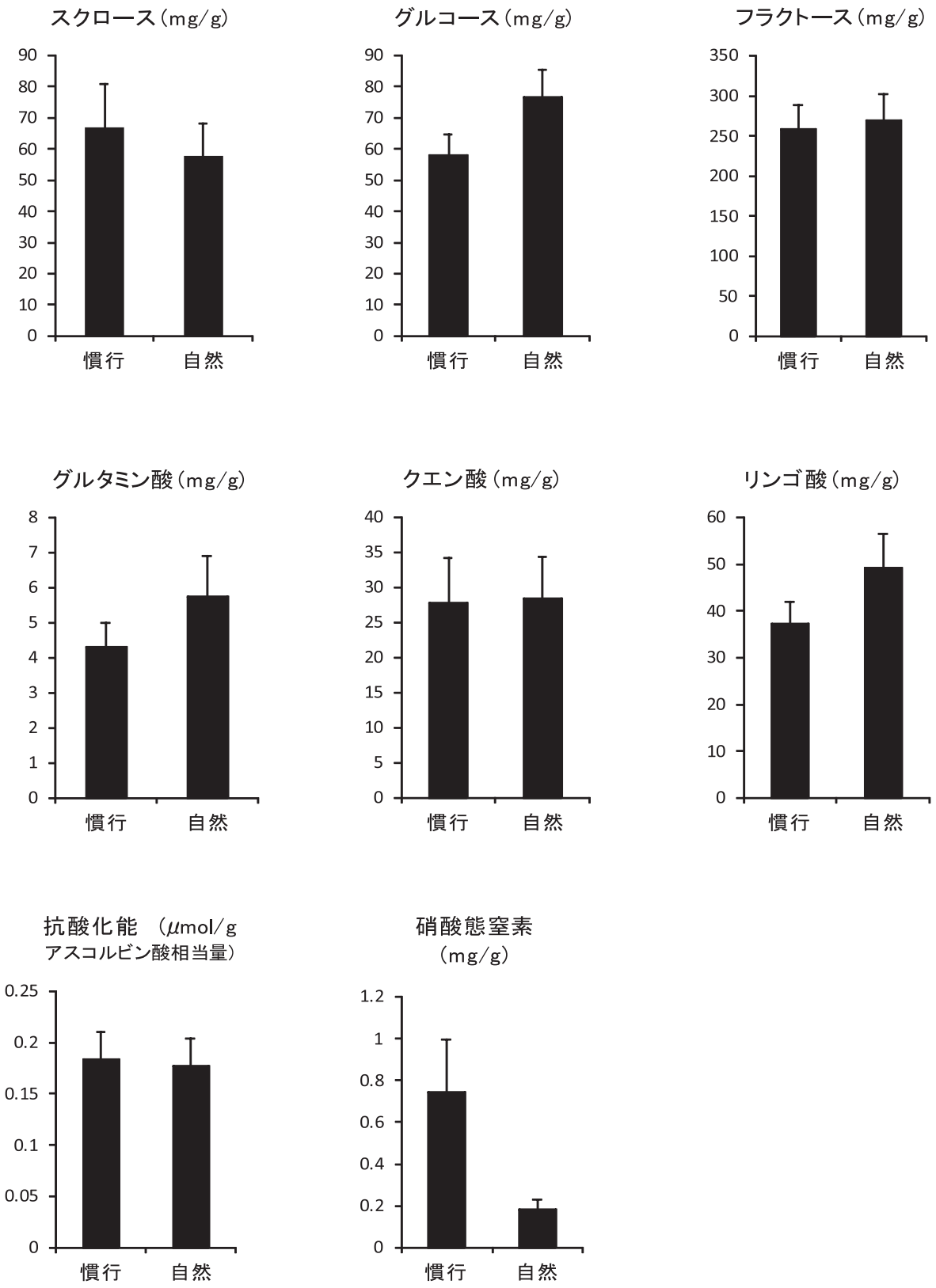

図１　自然栽培と慣行栽培の化学成分の比較　エラーバーは1se.

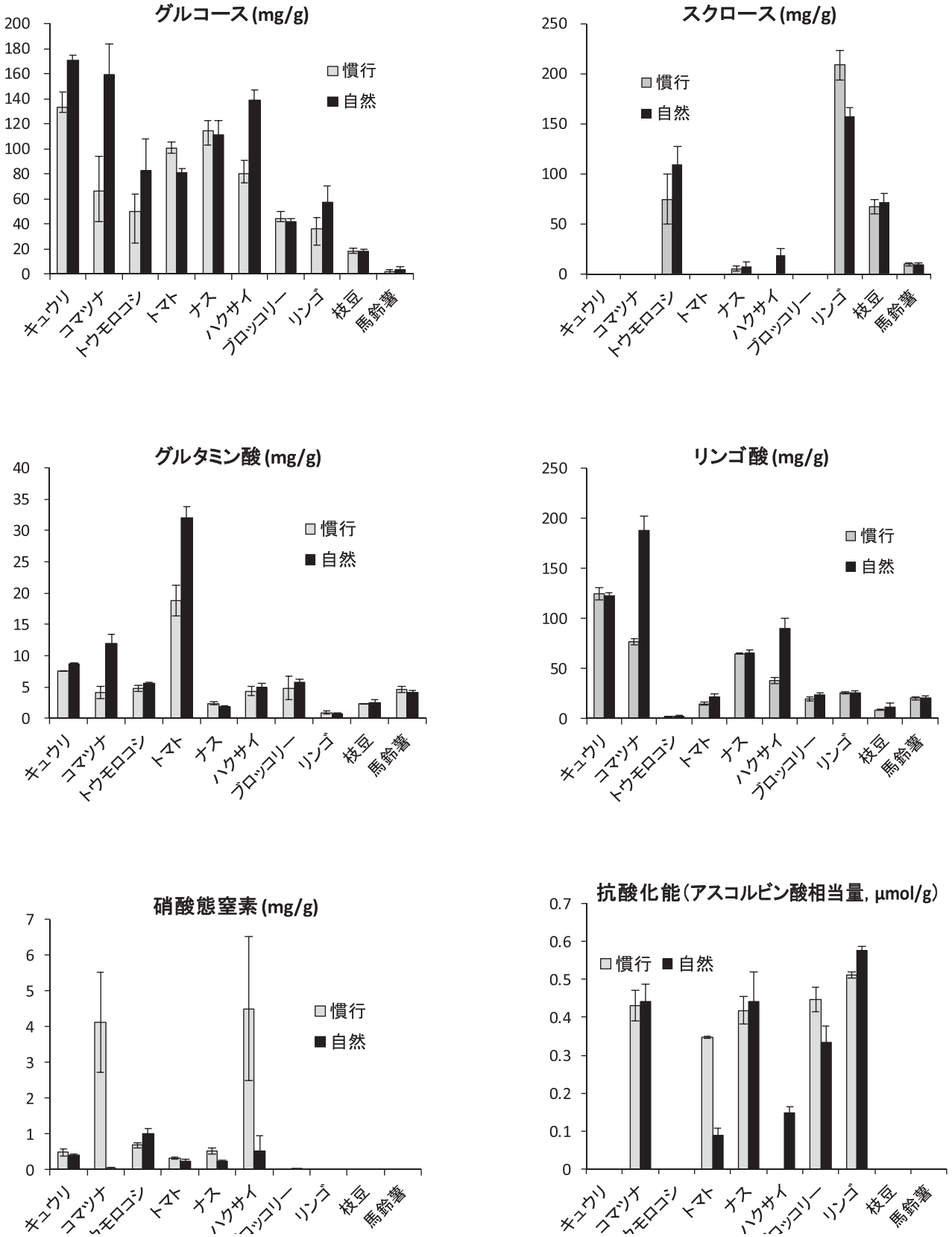

図２　各作物における自然栽培と慣行栽培の化学成分の比較　エラーバーは1se.

Comparison of nutritional contents of vegetables between natural farming (AK method) and conventional farming

Shuichi Sugiyama and Nagiko Toshima

Laboratory of Plant Ecology, Faculty of Agriculture and Life Science.

(Received for publication November 11, 2015)

Summary

Natural farming is a crop cultivation method without any fertilizers including manure and pesticides. Although crop growth and yield are restricted under natural farming because of nitrogen deficiency in soil, quality of harvests is likely to increase. In this study we compared nutritional contents between nine vegetables and one fruit cultivated by natural farming and by conventional farming. The crops examined were cucumber, tomato, eggplant, maize, potato, soybean, broccoli, komatsuna, Chinese cabbage and apple. The identical cultivars of each crop were raised in a natural farm that has been cultivated without fertilizers and pesticides for 13 years and in a nearby conventional farm. Ingredients measured were sugars (glucose, fructose and sucrose), glutamic acid, maleic acid citric acid and nitrate nitrogen content. Antioxidant potential using the DPPH method was also measured.

The analysis of variance showed that harvests by natural farming had significantly higher contents of glucose, glutamic acid and maleic acid and significantly lower nitrate nitrogen content than those by conventional farming, although highly significant interaction between crops and cultivation method were found. These results support the hypothesis that natural farming can increase food quality of harvests.

Key words: eating quality, natural farming, nutritional content

Bull. Fac. Agric. & Life Sci. Hirosaki Univ. **No.18**: 1–6, 2016

弘前大学農学生命科学部あすなろ賞要項

（設立目的）
1　弘前大学農学生命科学部あすなろ賞（以下「あすなろ賞」という）は，優れた生命科学における研究成果を学術集会で発表する弘前大学農学生命科学部および農学生命科学研究科の学生を顕彰することにより，学生の研究水準の向上を図ることを目的とする。

（対象研究成果と応募資格）
2　対象となる研究成果と応募資格は次のとおりとする。
ア　独創的な優れた生命科学における研究成果であること。
イ　研究は，弘前大学又はその関連する施設で行なわれたものであること。
ウ　応募者は，全国的または国際的レベルの学術集会で第一著者として発表する者（発表した者，または発表を予定する者）であること。

（応募方法等）
3　学術賞の応募者は，次に挙げる書類を各6部（正1部，副5部），弘前大学農学生命科学部長に提出する。
（1）申請書
（2）履歴書
（3）指導教員の推薦書
（400字以内）
（4）学術集会発表要旨のコピー
（5）応募締切は毎年1月末日とする。

（受賞）
4　受賞については次のとおりとする。
（1）受賞者の選考は，あすなろ賞選考委員会が行い，弘前大学農学生命科学研究科委員会で承認する。
（2）受賞者数は原則毎年10名とする。
（3）受賞者には本賞及び副賞を贈呈する。
（4）受賞者の発表演題，著者名，発表学術集会名，開催期間，発表場所は「弘前大学農学生命科学部学術報告」に掲載するものとする。ただし，上記学術報告は学部ホームページおよび弘前大学学術情報リポジトリとして掲載されるため，演題を掲載できない場合は，申請時に「あすなろ賞選考委員会」に申し出ること。
（5）申請した学会で発表しなかった場合，あすなろ賞の決定を取り消すものとする。

附 則
この要項は平成20年9月17日から施行する。
この要項は平成21年2月18日から施行する。
この要項は平成21年6月17日から施行する。
この要項は平成24年6月20日から施行する。
この要項は平成26年4月1日から施行する。

附 記
本賞は，弘前大学農学生命科学部における生命科学研究水準の向上を願う，京都大学教授佐藤 矩行氏の御厚意により設立されたものである。

あすなろ賞受賞者

平成26年度

高　橋　萌　子
Spiroleptospholの全合成研究
日本農芸化学会2015岡山大会，H27. 3. 26～29，岡山大学津島キャンパス

荒　山　美　紀
新規epi-cochlioquinone誘導体とその生合成前駆体の単離と構造
日本農芸化学会2015岡山大会，H27. 3. 26～29，岡山大学津島キャンパス

諸　岡　深　雪
プロトカテク酸脱炭酸反応の強化とリグニン系芳香族化合物を原料とした
cis, cis-ムコン酸生産へのアプローチ
日本農芸化学会2015岡山大会，H27. 3. 26～29，岡山大学津島キャンパス

伊　藤　汐　音
大腸菌における翻訳不完全性がもたらす塩耐性獲得機構の解明
第11回21世紀大腸菌研究会，H26. 6. 5～6，岩手県盛岡市　ホテル大観

名　取　史　晃
多雪地におけるブナ（*Fagus crenata*）の年輪幅に影響する気象要因
第126回日本森林学会大会，H27. 3. 26～29，北海道大学農学部

増　井　悠　人
山岳上部におけるミズナラの葉形態と生態の変異
第126回日本森林学会大会，H27. 3. 26～29，北海道大学農学部

石　川　正　樹
プラナリア生殖器官特異的に発現するアミノ酸輸送体ホモログの解析
日本動物学会第85会大会，H26. 9. 11～13，東北大学川内キャンパス

弘前大学農学生命科学部

研 究 業 績 目 録

2014年10月－2015年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
2014 (October) – 2015 (September)

弘前大学農学生命科学部

2016年1月

Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
Hirosaki 036 – 8561, Japan
January, 2016

はしがき

本号の「研究業績目録」には，2014年10月から2015年9月までの業績を掲載しました．業績の区分は，a－研究論文，b－学術図書，c－その他の著書・訳書，d－学会発表，e－調査・実験報告書，f－その他，とし，各自の申請に基づいています．各学科の教員組織（2015年9月30日現在）は以下の通りです．

生物学科

（基礎生物学コース）

葛西身延，黒尾正樹，福澤雅志，大河　浩，小林一也，笹部美知子，西野敦雄，吉田　渉

（生態環境コース）

杉山修一，東　信行，池田紘士，石田　清，曽我部篤，山尾　僚

分子生命科学科

（生命科学コース）

橋本　勝，姫野俵太，牛田千里，高田　晃，森田英嗣，横山　仁，栗田大輔，畠山幸紀

（応用生命コース）

大町鉄雄，吉田　孝，坂元君年，園木和典，殿内暁夫，濱田茂樹

生物資源学科

（食料開発コース）

石川隆二，千田峰生，戸羽隆宏，柏木明子，前多隼人

（生産環境コース）

青山正和，佐野輝男，比留間潔，赤田辰治，田中和明，松山信彦，金児　雄

園芸農学科

（園芸農学コース）

荒川　修，鈴木裕之，張　樹槐，松﨑正敏，川崎通夫，本多和茂，前田智雄，叶　旭君

田中紀充

（食農経済コース）

渋谷長生，泉谷眞実，石塚哉史，高梨子文恵，武田共治，吉仲　怜

地域環境工学科

泉　　完，佐々木長市，檜垣大助，藤崎浩幸，遠藤　明，加藤　幸，丸居　篤，森　　洋

加藤千尋，鄒　青穎，森谷慈宙

生物共生教育研究センター

伊藤大雄，姜　東鎮，房　家琛，松本和浩

目　　次

生物学科…… 13

基礎生物学コース…… 13

生態環境コース…… 15

分子生命科学科…… 19

生命科学コース…… 19

応用生命コース…… 21

生物資源学科…… 24

食料開発コース…… 24

生産環境コース…… 26

園芸農学科…… 31

園芸農学コース…… 31

食農経済コース…… 34

地域環境工学科…… 37

生物共生教育研究センター…… 40

業　績　目　録

【生物学科】

【基礎生物学コース】

葛西　身延

f-01. Kasai, M.: The link between photosynthetic matter production and vacuolar H^+ pumps in plants. Trends Photochem. Photobiol. 16: 71–76, 2014.

黒尾　正樹

a-01. Chen, M.-Y., R.-L. Mao, D. Liang, M. Kuro-o, X.-M. Zeng, P. Zhang: A reinvestigation of phylogeny and divergence times of Hynobiidae (Amphibia, Caudata) based on 29 nuclear genes. Mol. Phylogenet. Evol. 83: 1–6, 2015.

d-01. 黒尾正樹・十河尚旗・藤井忠志・長井和哉・浜加奈恵・八木橋隼土: ミトコンドリアDNAによるクマゲラの遺伝的多様性の解析. 日本遺伝学会第87回大会（仙台市), 2015.

f-01. 黒尾正樹：ミトコンドリアDNAを指標としたクマゲラの遺伝的多様性の解析. 岩手県立博物館日曜講座（招待講演）（盛岡市), 2015.

福澤　雅志

d-01. 桑名悟史・福澤雅志：細胞集合における増殖期由来 pstA 細胞の機能.　日本細胞性粘菌学会第4回年会（仙台市), 2014.

d-02. Kuwana, S., M. Fukuzawa: A novel ubiquitin like domain containing protein is required for early development and cAMP propagation in D. discoideum. International Dictyostelium Meeting 2015. London, 2015.

d-03. Fukuzawa, M., A. Ishizaka: Prespore CudA requires CudD for nuclear accumulation. International Dictyostelium Meeting 2015. London, 2015.

大河　浩

a-01. Fukayama, H., C. Masumoto, Y. Taniguchi, A. Baba-Kasai, Y. Katoh, H. Ohkawa, M. Miyao: Characterization and expression analyses of two plastidic enolase genes in rice. Biosci. Biotechnol. Biochem. 79: 402–409, 2015.

a-02. Nitanai, N., K. Kakizaki, K. Kitoh, H. Maeda, H. Ohkawa: Isolation of stress tolerance microalgae in Aomori area: its morphological and physiological characteristics I. Shirakami-kenkyu. 10: 3–11, 2015.

b-01. 大河　浩：光合成研究と産業応用最前線　第1編光合成の基礎研究 第4章二酸化炭素受容系 第1節光合成炭素代謝における無機炭素濃縮メカニズム.　NTS出版: 133–145, 2014.

d-01. 似内菜月・高山稜史・大河　浩：青森県沿岸域から単離された微細藻HOC3株の形態的特徴と生育特性比較. 東北植物学会大会（山形市), 2014.

d-02. 貝塚　亮・田中康史・大河　浩：葉緑体プロトン放出能へのCemA2の寄与. 東北植物学会第4回大会（山形市), 2014.

f-01. 庄野浩資・園木和典・大河　浩：紫外可視光変換材料を利用した低日照地域のバイオマス生産評価 Biomass production using an ultraviolet-visible light conversion material in a low sunshine area. 連合農学研究科研究科長裁量経費（共同研究奨励費）の研究報告会（盛岡市), 2015.

小林　一也

a-01. Okano, D., S. Ishida, S. Ishiguro, K. Kobayashi: Light and electron microscopic studies of intestinal epithelium in *Notoplana humilis* (Plathlminthes, Polycladida): The contribution of mesodermal/gastrodermal neoblasts to intestinal regeneration. Cell Tissue Res. on line, 2015.

d-01. Kobayashi, K.: Yolk glands containing a large amount of tryptophan have a set of sex-inducing substances to fully sexualize asexual worms of *Dugesia ryukyuensis*. International Symposium of Flatworm Biology（招待講演). Oxford, 2015.

d-02. Maezawa, T., M. Ishikawa, G. Nagamatsu, K. Kobayashi: Tryptophan enhances the reproductive organs-specific

expression level of an amino acid transporter homolog, *Dr-SLC38A9* to promote sexual induction of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. International Symposium of Flatworm Biology. Oxford, 2015.

d-03. Nagao, N., T. Maezawa, K. Kobayashi: 5-Hydroxytryptophan induces ovaries, and knockdown of tryptophan hydroxylase homolog inhibits sexual induction in the asexual worms of *Dugesia ryukyuensis*. International Symposium of Flatworm Biology. Oxford, 2015.

d-04. Maezawa, T., M. Ishikawa, G. Nagamatsu, K. Kobayashi: Tryptophan enhances the reproductive organs-specific expression level of an amino acid transporter homolog, *Dr-SLC38A9* to promote sexual induction of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. European Planarian Meeting. Oxford, 2015.

d-05. Nagao, N., T. Maezawa, K. Kobayashi: 5-Hydroxytryptophan induces ovaries, and knockdown of tryptophan hydroxylase homolog inhibits sexual induction in the asexual worms of *Dugesia ryukyuensis*. European Planarian Meeting. Oxford, 2015.

d-06. Nagao, N., T. Maezawa, H. Tanaka, K. Kobayashi: 5-Hydroxytryptophan acts as an ovary-inducing substance in asexual worms of *Dugesia ryukyuensis*. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists. Tsukuba, 2015.

d-07. 前澤孝信・石川正樹・小林一也：プラナリア生殖器官に特異的に発現するアミノ酸トランスポーターホモログ遺伝子の機能解析. 中国四国地区三学会（愛媛県), 2015.

d-08. 手塚　礼・織井秀文・小林一也：プラナリア生殖器官分化に注目したWnt遺伝子の発現解析．日本動物学会第86回新潟大会（新潟市), 2015.

d-09. 前澤孝信・石川正樹・小林一也：トリプトファンは*Dr-SLC38A9*の発現誘導を介してプラナリアの有性化を進行させる．日本動物学会大会（新潟市), 2015.

d-10. 岡本　光・手塚　礼・小林一也：プラナリアと仲良しになりませんか？―見て，切って，食べさせる― 日本動物学会第86回新潟大会（動物学ひろば）（新潟市), 2015.

d-11. 小林一也：プラナリアのちょっと変わった生き残り作戦. 日本動物学会大会（公開講演会「研究の世界で活躍する動物たち」）（新潟市), 2015.

笹部　美知子

a-01. Kawamoto, N., M. Sasabe, M. Endo, Y. Machida, T. Araki: Calcium-dependent protein kinases responsible for the phosphorylation of a bZIP transcription factor FD crucial for the florigen complex formation. Sci. Rep. 5: 8341, 2015.

a-02. Sasabe, M., N. Ishibashi, T. Haruta, A. Minami, D. Kurihara, T. Higashiyama, R. Nishihama, M. Ito, Y. Machida: The carboxyl-terminal tail of the stalk of *Arabidopsis* NACK1/HINKEL kinesin is required for its localization to the cell plate formation site. J. Plant Res. 128: 327–336, 2015.

d-01. 笹部美知子・桧垣　匠・栗原大輔・東山哲也・馳澤盛一郎・町田泰則：植物の細胞板形成を支えるM期キネシンNACK1とMAPKカスケード．日本バイオイメージング学会（東京都), 2015.

d-02. 笹部美知子・桧垣　巧・西田結花・石橋奈々子・栗原大輔・東山哲也・西浜竜一・伊藤正樹・馳澤盛一郎・町田泰則：M期特異的キネシンNACK1のC末端領域は細胞板形成部位への局在に必要である．日本植物学会大会（新潟市), 2015.

d-03. 笹部美知子・桧垣　巧・大和田理恵・相田治寿・西田結花・馳澤盛一郎・町田泰則：植物の細胞板形成を支える分子メカニズム．日本植物生理学会年会（東京都), 2015.

d-04. 川本　望・笹部美知子・遠藤　求・町田泰則・荒木　崇：カルシウム依存性タンパク質キナーゼCPK33はFDをリン酸化しフロリゲン複合体形成を制御する．日本植物生理学会年会（東京都), 2015.

d-05. 笹部美知子・石橋奈々子・春田　剛・南　明希・栗原大輔・東山哲也・西浜竜一・伊藤正樹・町田泰則：シロイヌナズナAtNACK1/HINKELキネシンのC末端領域は細胞板形成領域への局在に必要である．東北植物学会大会（山形市), 2014.

d-06. 伊藤千尋・笹部美知子：植物細胞における細胞極性及び分裂方向の決定に関わる分子メカニズム解明のための基礎的研究．東北植物学会大会（山形市), 2014.

d-07. 中田美果子・大和田理恵・中野理恵・町田泰則・笹部美知子：植物の細胞分裂を制御するキネシンと相互作用する新規プロテインホスファターゼのシロイヌナズナホモログの解析（2）．東北植物学会大会（山形市), 2014.

d-08. 西田結花・桧垣　巧・馳澤盛一郎・町田泰則・笹部美知子：細胞板形成の鍵因子であるNACK1キネシン及びNPK1 MAPKKKの細胞板形成部位への特異的局在機構の解析．東北植物学会大会（山形市), 2014.

西野　敦雄

b-01. 西野敦雄：第7章 ウニ類とホヤ類 新口動物の無脊椎動物（翻訳）『ギルバート発生生物学』（阿形清和，高橋淑子監訳）. メディカル・サイエンス・インターナショナル: 221–245, 2015.

d-01. Jokura, K., J. Nishino, M. Ogasawara, A. Nishino: Possible involvement of an alpha7-class nicotinic acetylcholine receptor in the ciliary arrest response in *Ciona* stigmatal cells. The 8th International Tunicate Meeting, Aomori, 2015.

d-02. Watanabe, S., A. Nishino: Is the spiral swimming trajectories of the larva based on the spiral configuration of myofibrils in the tail muscle cells. The 8th International Tunicate Meeting, Aomori, 2015.

d-03. 渡部　翔・西野敦雄：ホヤのオタマジャクシ型幼生における螺旋型遊泳運動の解析．日本動物学会大会（新潟市）, 2015.

d-04. 城倉　圭・西野純子・小笠原道生・西野敦雄：アセチルコリン（ACh）によるホヤの鰓の繊毛停止反応の誘起．日本動物学会大会（新潟市）, 2015.

d-05. 西野敦雄：次の35年のために，被嚢動物学をもう一度考えてみる．日本動物学会大会．関連集会「第35回ホヤの生物学談話会」（新潟市）, 2015.

吉田　渉

a-01. Wagatsuma, K., L. Lu, S. Nishitani, W. Yoshida, S. Ishida: Morphological comparison of *Phagocata* sp. from Mt. Changbai water system in China with *Phagocata vivida* in Japan. SHIRAKAMI-SANCHI. 4: 27–33, 2015.

d-01. 大嶋真謙・吉田　渉：閉鎖型循環水槽での稚ナマコの成長と飼料開発．平成26年度日本水産学会東北支部大会（秋田市）, 2014.

d-02. 大嶋真謙・吉田　渉：閉鎖循環式水槽における稚ナマコ成育の至適水温と餌料．平成27年度日本水産学会春季大会（東京都）, 2015.

f-01. 吉田　渉：NHK総合テレビ：番組「うまいッ!」能登のナマコ．出演及び取材協力（放送日：2015年2月8日）, 2015.

f-02. 大嶋真謙・吉田　渉：閉鎖型循環水槽での稚ナマコの成長と飼料開発．日本水産学会東北支部会報65号：26, 2015.

【生態環境コース】

杉山　修一

a-01. Fraser L.H., J. Pither, A. Jentsch, M. Sternberg, M. Zobel, D. Askarizadeh, S. Bartha, C. Beierkuhnlein, J.A. Bennett, A. Bittel, B. Boldgiv, I.I. Boldrini, E. Bork, L. Brown, M. Cabido, J. Cahill, C.N. Carlyle, G. Campetella, S. Chelli, O. Cohen, A.-M. Csergo, S. Díaz, L. Enrico, D. Ensing, A. Fidelis, J.D. Fridley, B. Foster, H. Garris, J.R. Goheen, H.A.L. Henry, M. Hohn, M.H. Jouri, J. Klironomos, K. Koorem, R. Lawrence-Lodge, R. Long, P. Manning, R. Mitchell, M. Moora, S.C. Müller, C. Nabinger, K. Naseri, G.E. Overbeck, T.M. Palmer, S. Parsons, M. Pesek, V.D. Pillar, R.M. Pringle, K. Roccaforte, A. Schmidt, Z. Shang, R. Stahlmann, G.C. Stotz, S. Sugiyama, S. Szentes, D. Thompson, R. Tungalag, S. Undrakhbold, M. van Rooyen, C. Wellstein, J.B. Wilson, T. Zupo: Worldwide evidence of a unimodal relationship between productivity and plant species richness. Science. 349: 302–305, 2015.

a-02. 杉山修一・関屋涼太：自然栽培リンゴ園における昆虫の群集構造とキンモンホソガの天敵防除．弘前大学農学生命科学部学術報告．17：1–6, 2015.

d-01. 細谷啓太・杉山修一：東日本16無肥料水田における収量差の解析．日本作物学会講演会（藤沢市）, 2015.

d-02. 細谷啓太・劉　広成・杉山修一：収量性が異なる長期無施肥水田の窒素循環．日本作物学会大会（長野市）, 2015.

d-03. 杉山修一・羽田正英：奇跡のリンゴの成功は園地の生物群集と関係する．日本生態学会大会（鹿児島市）, 2015.

d-04. 平久江歩美・杉山修一：自然栽培におけるリンゴの病害抵抗性は内生菌群集と関係する．日本生態学会大会（鹿児島市）, 2015.

d-05. 中野敬護・杉山修一：環境ストレスに対するオーチャードグラスの集団分化 I．温暖化ストレス耐性の集団分化．日本草地学会講演会（伊那市）, 2015.

d-06. 中野敬護・杉山修一：環境ストレスに対するオーチャードグラスの集団分化 II．DNA変異からみた遺伝的分化．日本草地学会講演会（伊那市）, 2015.

f-01. 杉山修一：農業における植物内生菌の可能性．農業環境技術研究所公開セミナー「農業生産を支える土の中の小さな生物」（東京都）, 2015.

東　信行

a-01. 工藤誠也・大宮慧子・三浦太智・渡邉　泉・東　信行：生体内微量元素を用いた青森県沿岸マダラの回遊推定. 日本水産学会誌. 81：227–233, 2015.

a-02. 田村和也・東　信行：魚類標本の安定同位体比を指標とした青森県小河川における環境変遷の推定. 人間と環境. 41：2–16, 2015.

a-03. 蛯名純一・坂有希子・東　信行, 三上かつら：青森県三沢市で同所的に繁殖したニュウナイスズメとスズメ. Bird Res. 11：S1–S7, 2015.

a-04. 山本和司・佐藤高広・小田桐勝則・川村昌弘・東　信行：砂浜海岸における港湾建設後の生物組成の変化について：七里長浜港の事例. 土木学会論文集B3（海洋開発）. 31：892–897, 2015.

d-01. 大宮慧子・工藤誠也・三浦太智・渡邉　泉・東　信行：生体内元素分析を用いた陸奥湾産卵群マダラの個体群判別. 日本生態学会大会（鹿児島市), 2015.

d-02. 森田知沙・香川裕之・大関民哉・東　信行：青森県岩木川の河畔林に営巣するオオタカの環境利用の比較. 日本生態学会大会（鹿児島市), 2015.

d-03. 伊藤　楓・東　信行：カンムリカイツブリの繁殖に関するオオクチバスの間接的影響. 日本生態学会大会（鹿児島市), 2015.

d-04. 岩﨑知子・鈴木浩文・古林千春・樫村　昇・佐々木紅良・池島　耕・水野直樹, 和田　実・東　信行：ヒイラギ科二種の発光シグナル解析. 平成27年度日本水産学会春季大会（東京都), 2015.

d-05. 神崎東子・田村和也・工藤誠也・野田香織・渡邉　泉・東　信行：ダム湖が及ぼす流程方向における物質循環の変化. 平成27年度日本水産学会春季大会（東京都), 2015.

d-06. Shiozuka, N., T. Kanzaki, M.T. Kazama, R. Nakashita, N. Azuma: Using stable isotopes to determine Japanese water shrew trophic position in headwater food webs and importance of continuity of riverine ecotone. 5th International Wildlife Management Congress. Sapporo, 2015.

d-07. 神崎東子・田村和也・工藤誠也・佐藤　臨・井上博元・野田香織・池田紘士・中下留美子・渡邉　泉・東　信行：ダム湖が及ぼす流程方向における物質循環の変化. 応用生態工学会研究発表会（郡山市), 2015.

d-08. Azuma, N., C. Iwasaki, S. Kudo, H. Inoue, K. Noda, I. Watanabe: Elimination of the heavy metals from coastal water by scallop cultivation. Japan Geoscience Union Meeting. Chiba, 2015.

d-09. Kudo, S., I. Watanabe, N. Azuma: Estimating the natal sites of clearwing moths by using trace elements and the invasive pattern of currant clearwing moth. Japan Geoscience Union Meeting. Chiba, 2015.

池田　紘士

a-01. 岩崎貴也・阪口翔太・横山良太・高見泰興・大澤剛士・池田紘士・陶山佳久：総説 生物地理学とその関連分野における地理情報システム技術の基礎と応用. 日本生態学会誌. 64: 183–199, 2014.

a-02. Ohwaki, A, Y. Kaneko, H. Ikeda: Seasonal variability in the response of ground beetles to forest edge in a heterogeneous agricultural landscape in Japan, Eur. J. Entomol. 112: 135–144, 2015.

a-03. Ikeda, H., M.A. Callaham Jr., J.J. O'Brien, B.S. Hornsby, E.S. Wenk: Can the invasive earthworm, Amynthas agrestis, be controlled with prescribed fire? Soil Biol. Biochem. 82: 21–27, 2015.

a-04. Hashimoto, A., G. Sato, T. Matsuda, M. Matsumura, S. Hatakeyama, Y. Harada, H. Ikeda, K. Tanaka: Taxonomic revision of *Pseudolachnea* and *Pseudolachnella* and establishment of *Neopseudolachnella* and *Pseudodinemasporium* gen. nov. Mycologia. 107: 383–408, 2015.

a-05. 南谷幸雄・池田紘士・金子信博：青森県の陸生大型貧毛類（ミミズ）相. 青森自然誌研究. 20: 81–90, 2015.

d-01. 金子信博・南谷幸雄・三浦季子・角田智詞・池田紘士・杉山修一：有機リンゴ圃場の土壌生物多様性―慣行リンゴ圃場および森林との比較―. 日本有機農業学会（島根県), 2014.

d-02. 池田紘士, M.A. Callaham Jr., J.J. O'Brien, B.S. Hornsby, E.S. Wenk：日本からアメリカに侵入した外来ミミズを火入れで管理できるか？. 日本生態学会（鹿児島市), 2015.

d-03. 久保田耕平・氏家昌行・池田紘士：日本産ルリクワガタ属の分布形成は気候要因で説明できるか？. 日本昆虫学会（福岡市), 2015.

d-04. Callaham, M.A. Jr., H. Ikeda, S.L. Goodrick, B.A. Snyder, T.A. Waldrop: Prescribed fire for managing the invasive earthworm, *Amynthas agrestis*, in the Southern Appalachian Mountains: A simulation model. Soil Ecology Society Meetings. Colorado, 2015.

d-05. 神崎東子・田村和也・工藤誠也・佐藤　臨・井上博元・野田香織・池田紘士・中下留美子・渡邉　泉・東　信行：

ダム湖が及ぼす流程方向における物質循環の変化．応用生態工学会研究発表会（郡山市），2015.

石田　清

d-01. 石田　清：ブナの開葉に要する積算温量の場所間変異：降霜と積雪の影響．第62回日本生態学会大会（鹿児島市），2015.

d-02. 加藤禎孝・石田　清・菊地淳一・鳥居春己：イラクサの刺毛形質の表現型可塑性：誘導防御に及ぼす前年度被食の影響．日本生態学会大会（鹿児島市），2015.

d-03. 石田　清・早川玲奈：積雪の多寡によって変わるブナの生態：多雪山地における林冠フェノロジーと実生の生存パターン．日本森林学会大会（札幌市），2015.

d-04. 名取史晃・石田　清：多雪地におけるブナ（*Fagus crenata*）の年輪幅に影響する気象要因．日本森林会大会（札幌市），2015.

d-05. 増井悠人・石田　清：山岳上部におけるミズナラの葉形態と生態の変異．日本森林会大会（札幌市），2015.

d-06. 鳥丸　猛・櫻井　創・赤田辰治・石田　清・檜垣大助：白神山地サンスケ沢ブナ天然林における森林動態．日本森林会大会（札幌市），2015.

d-07. Ishida, K., R. Hayakawa, S. Hiramatsu: Effects of snowmelt timing on survival of beech saplings (*Fagus crenata*) in snowy mountains of northern Japan. ESA 100th Annual Meeting & Exposition. Baltimore, 2015.

d-08. Kato, T., K. Ishida, J. Kikuchi, H. Torii: Damaged-induced response and seasonal variation in stinging hair traits of Japanese nettle (*Urtica thunbergiana*) seedlings in two subpopulations with different browsing pressure by Sika deer. ESA 100th Annual Meeting & Exposition. Baltimore, 2015.

曽我部　篤

d-01. 曽我部篤：ヨウジウオ科魚類における配偶システム多様化の至近要因と系統的制約．日本動物行動学会大会（長崎市），2014.

d-02. 畑　啓生・中野玲奈・川西亮太・曽我部篤：魚類に寄生するウオノエ科等脚類の分子系統．四国魚類研究会（徳島市），2015.

f-01. 曽我部篤：浅虫における動物行動学実習開発．2015年度全国国立大学臨海臨湖実験所所長会議シンポジウム「水棲動物の行動学研究と教育への応用」（熊本市），2015.

山尾　僚

a-01. Yamawo, A.: Relatedness of neighboring plants alters the expression of indirect defense traits in an extrafloral nectary-bearing plant. Evol. Biol. 42: 12–19, 2015.

a-02. Tanaka, K., A. Yamawo, O. Yano: Seed dispersal by ants in *Carex oxyandra* var. *oxyandra* (Cyperaceae) from Japan. J. Jpn. Bot. 90: 129–133, 2015.

a-03. Yamawo, A., M. Tokuda, N. Katayama, J. Tagawa: Ant-attendance in extrafloral nectar-bearing plants promotes growth and decreases the expression of traits related to direct defenses. Evol. Biol. 42: 191–198, 2015.

a-04. Tanaka, K., K. Ogata, H. Mukai, A. Yamawo, M. Tokuda: Adaptive advantage of myrmecochory in the ant-dispersed herb *Lamium amplexicaule* L. (Lamiaceae): Predation avoidance through the deterrence of postdispersal seed predators. Plos One. 10: e0133677, 2015.

a-05. Fukano, Y., A. Yamawo: Self-discrimination in the tendrils of the vine *Cayratia japonica* is mediated by physiological connection. Proc. R. Soc. B. 282: 20151379, 2015.

a-06. Yamawo, A., J. Tagawa: Leaf damage effects on leaf expansion timing in *Mallotus japonicus* (Euphorbiaceae). Plant Species Biol. (in press).

a-07. Yamawo, A.: Extrafloral nectaries of *Melia azedarach* (Meliaceae): a first record in the *Melia* genus. J. Jpn. Bot. (in press).

b-01. Yamawo, A., M. Tokuda: *Extrafloral nectar production and plant defense strategies*. In Nectar: production, chemical composition and benefits to animal and plants. (ed. Robin L. Peck.) Nova Science Publishers. pp.59–76, 2015.

d-01. 長岡希隆・向井裕美・所　雅彦・山尾　僚・野間口眞太郎：ヤマトシリアゲの雄による婚姻贈呈：運べないギフトをどう渡すのか？．動物行動学会（長崎市），2014.

d-02. 田中弘毅・木下智章・山尾　僚：種子散布共生系の維持メカニズム：報酬のタダ食いに対する種子表面物質を用

いた補償．日本生態学会（鹿児島市），2015.

d-03. 山尾　僚：花外蜜腺植物における直接防御と間接防御を用いた被食防御戦略．日本生態学会自由集会（鹿児島市），2015.

d-04. 山尾　僚：植物における共生者認識と表現型可塑性．日本生態学会企画集会（鹿児島市），2015

d-05. 白濱祥平・山尾　僚・徳田　誠：オオイヌタデの無毛・有毛型におけるタデキボシホソガの産卵選好性．日本昆虫学会大会（福岡市），2015.

f-01. ヤブガラシ研究で弘大・山尾助教ら自他識別能力を発見．陸奥新報（2015年8月27日版），2015.

f-02. 遺伝子介さず自他識別 弘大・山尾助教ら研究 英紀要掲載．東奥日報（2015年8月27日版），2015.

f-03. つる植物に自他識別能力 ヤブガラシ研究 弘大・山尾助教ら発見．毎日新聞（2015年9月3日版），2015.

f-04. Self-aware plants. New Scientist 60 Seconds News (26 Aug. 2015), 2015.

【分子生命科学科】

【生命科学コース】

橋本　勝

a-01. Arayama, M., H. Maeda, K. Tanaka, N. Takada, T. Nehira, M. Hashimoto: Achaetolide-II isolated from *Helminthosporium velutinum* TS28. Tetrahedron. 71: 7900–7905, 2015.

a-02. Honmura, Y., H. Takekawa, K. Tanaka, H. Maeda, T. Nehira, W. Hehre, M. Hashimoto: Computation-Assisted Structural Elucidation of Epoxyroussoeone and Epoxyroussoedione Isolated from Roussoella japanensis KT1651. J. Nat. Prod. 78: 1505–1510, 2015.

a-03. Arayama, M., T. Nehira, H. Maeda, K. Tanaka, H. Miyagawa, T. Ueno, S. Hosokawa, M. Hashimoto: Isolation, ECD Assisted Structural Analyses, Biosynthetic Discussions, and Biological activities of epi-Cochlioquinones D and its Derivatives. Tetrahedron. 71: 4788–4794, 2015.

a-04. 橋本　勝：「リンゴ果実上におけるマイコパラサイト現象の分子機構」. 有機合成化学協会誌. 73: 230–240, 2015.

a-05. Ito, A., H. Maeda, A. Tonouchi, M. Hashimoto: Relative and absolute structure of phomolide C. Biosci. Biotech. Biochem. 79: 1067–1069, 2015.

a-06. Fujii, M., H. Chiba, N. Tamayama, S. Kanamaru, M. Hashimoto: Isotopic Differentiation Protocol, a Selective Extraction of C- and N-Terminal Ions in ESI-Ms/Ms De Novo Peptide Sequencing. Nat. Prod. Chem. Res. 3: 164, 2015.

d-01. 本村優奈・狩原恭平・田中和明・前多隼人・根平達夫・W.J. Hehrec・橋本　勝：「量子化学計算支援による Epoxyroussoeone類の構造決定」. 天然有機化合物討論会（高知市）, 2014.

d-02. 橋本 勝：「リンゴ果実におけるマイコパラサイト現象の生物有機化学研究」. 日本化学会東北支部 青森地区講演会（弘前市）, 2014.

d-03. Hashimoto, M.: Bioorganic Studies on Mycoparasitism on Apple Fruites. Michigan State University Department of Chemistry Seminor. MSU, 2014.

d-04. 高橋萌子・橋本　勝：「Spiroleptosphol の全合成研究」. 日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学）, 2015.

d-05. 伊藤　厚・殿内暁夫・橋本　勝：「Phomolide C の相対及び絶対配置の決定」. 日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学）, 2015.

d-06. 荒山美紀・田中和明・前多隼人・根平達夫・橋本　勝：「新規epi-cochlioquinone誘導体と その生合成前駆体の単離と構造」. 日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学）, 2015.

d-07. 伊藤　厚・殿内暁夫・橋本　勝：「Phomolide C の相対及び絶対配置の決定」. 第10回化学生態学研究会（函館市）, 2015.

d-08. 橋本　勝・本村優奈・根平達夫：「分子軌道計算支援による新規マクロフォリンの構造決定」. 第10回化学生態学研究会（函館市）, 2015.

d-09. Arayama, M., T. Nehira, H. Maeda, K. Tanaka, H. Miyagawa, T. Ueno, S. Hosokawa, M. Hashimoto: Isolation, ECD Assisted Structural Analyses, Biosynthetic Discussions, and Biological activities of epi-Cochlioquinones D and its Derivatives. 15th International Conference on Chiral Spectroscopy, Sapporo, 2015.

d-10. Hashimoto, M.: Bioorganic Studies on Mycoparasitism on Apple Fruites. University of Saskatchewan Special Simminor, 2015.

d-11. 荒山美紀・前多隼人・田中和明・根平達夫・宮川　恒・上野民夫・細川誠二郎・橋本　勝：Cochlioquinone化学の新展開―ECDの徹底活用と新たな生物活性考察. 天然有機化合物討論会（横浜市）, 2015.

姫野　俵太

a-01. Kurita, D., M. Miller, A. Muto, A. Buskirk, H. Himeno: Rejection of tmRNA• SmpB after GTP hydrolysis by EF-Tu on ribosomes stalled on intact mRNA. RNA, 20: 1706–1714, 2014.

a-02. Kurita, D., Y. Chadani, A. Muto, T. Abo, H. Himeno: ArfA recognizes the lack of mRNA in the mRNA channel after RF2 binding for ribosome rescue. Nucleic Acids Res., 42: 13339–13352, 2014.

a-03. Himeno, H., N. Nameki, D. Kurita, A. Muto, T. Abo : Ribosome rescue systems in bacteria. Biochimie, 114: 102–112, 2015.

d-01. 栗田大輔・武藤　昱・阿保達彦・姫野俵太：ArfA/RF2による翻訳停滞解消機構の解析. 日本RNA学会年会（札

幌), 2015.

f-01. 姫野俵太：リボソームが関わる新規の浸透圧ストレス応答機構．平成27年度弘前大学機関研究セミナー（弘前大学), 2015.

牛田　千里

a-01. Kiyosawa, H., A. Okumura, S. Okui, C. Ushida, G. Kawai: Secondary structure-based analysis of mouse brain small RNA sequences obtained by using next-generation sequencing. Genomics 106: 122–128, 2015.

a-02. 牛田千里：small structured ncRNAの機能ゲノミクス．日本マイコプラズマ学会雑誌．41：15–18, 2014.

c-01. 牛田千里：ポリコーム群（Polycomb group: PcG）．生化学．87：489, 2015.

c-02. 牛田千里：長鎖ノンコーディングRNA（long noncoding RNA: lncRNA）．生化学．87：489, 2015.

d-01. 清澤秀孔・奥居沙弥・牛田千里・河合剛太：マウス細胞内で発現している低分子RNAとその構造解析．日本分子生物学会年会（横浜市), 2014.

d-02. 牛田千里:線虫核小体RNA遺伝子欠損株MT16939が示す精子形成異常と胚発生異常．第3回リボソームミーティング（宮崎青島温泉), 2015.

d-03. Sato M., S. Kihara, C. Ushida: Expression pattern of *C. elegans* Y RNA homologs. *C. elegans* 2015, 20th International meeting. UCLA, California, 2015.

d-04. 佐藤愛海・木原真哉・牛田千里：線虫野生株N2およびROP-1遺伝子変異株MQ470におけるY RNAホモログの発現．日本RNA学会（札幌市），2015.

e-01. 牛田千里：線虫rRNA前駆体のプロセシング異常と受精異常の相関およびその仕組みの解明．公益信託林女性自然科学者研究助成基金事業報告書．No.24：16–17, 2014.

f-01. 牛田千里．講演「私のワークライフバランス」．第20回日本RNA学会 男女共同参画企画（札幌市), 2015.

高田　晃

a-01. Arayama, M., H. Maeda, K. Tanaka, T. Nehira, N. Takada, M. Hashimoto: Achaetolide-II isolated from Helminthosporium velutinum TS28. Tetrahedron. 71: 7900–7905, 2015.

森田　英嗣

d-01. 田端佳介・新井亜利紗・小林万希子・有本　大・斉藤一伸・森田英嗣：フラビウイルス増殖に関する新規宿主因子の探索及び同定．日本細菌学会東北支部総会（郡山市), 2015.

d-02. 田端桂介・小林万希子・有本　大・斉藤一伸・大森弘子・奈良篤樹・森田英嗣：フラビウイルス粒子形成に関与するESCRT因子群．日本脳炎ウイルス生態学研究会（京都市), 2015.

d-03. 新井亜利紗・小林万希子・有本　大・田端佳介・森田英嗣：フラビウイルス増殖におけるVCP/p97の役割．生化学会東北支部会（仙台市), 2015.

d-04. 小林万希子・田端桂介・有本　大・斉藤一伸・森田英嗣：フラビウイルス増殖に関する新規宿主因子の探索及び同定．日本ウイルス学会学術集会（横浜市), 2014.

d-05. 田端桂介・有本　大・齊藤一伸・大森弘子・森田英嗣：フラビウイルス複製オルガネラ局在タンパク質のイメージング解析．トガ・フラビ・ペスチウイルス研究会（横浜市), 2014.

横山　仁

a-01. Hayashi, S., H. Ochi, H. Ogino, A. Kawasumi, Y. Kamei, K. Tamura, H. Yokoyama: Transcriptional regulators in the Hippo signaling pathway control organ growth in Xenopus tadpole tail regeneration. Developmental Biology. 396: 31–41, 2014.

a-02. Hayashi, S., H. Yokoyama, K. Tamura: Roles of Hippo signaling pathway in size control of organ regeneration. Development, Growth & Differentiation. 57: 341–351, 2015.

a-03. Hayashi, S., T. Kobayashi, T. Yano, N. Kamiyama, S. Egawa, R. Seki, K. Takizawa, M. Okabe, H. Yokoyama, K. Tamura: Zoological Letters. 1: 17, 2015.

a-04. Seki, R., K. Kitajima, H. Matsubara, T. Suzuki, D. Saito, H. Yokoyama, K. Tamura: AP-2β is a transcriptional regulator for determination of digit length in tetrapods. Developmental Biology. (doi: 10.1016/j.ydbio.2015.08.006), 2015.

a-05. Hayashi, S., A. Kawaguchi, I. Uchiyama, A. Kawasumi-Kita, T. Kobayashi, H. Nishide, R. Tsutsumi, K. Tsuru,

T. Inoue, H. Ogino, K. Agata, K. Tamura, H. Yokoyama: Epigenetic modification maintains intrinsic limb-cell identity in Xenopus limb bud regeneration. Developmental Biology. (doi: 10.1016/j.ydbio.2015.08.013), 2015.

a-06. †Kawasumi-Kita, A., T. †Hayashi, T. Kobayashi, C. Nagayama, S. Hayashi, Y. Kamei, Y. Morishita, T. Takeuchi, K. Tamura, H. Yokoyama: Application of local gene induction by infrared laser-mediated microscope and temperature stimulator to amphibian regeneration study. Development, Growth & Differentiation. (doi: 10.1111/dgd.12241), 2015. †equal contribution

d-01. 横山　仁：Post embryonicなツメガエルにおける局所的な遺伝子発現の誘導について．イベリアトゲイモリ研究集会（米子市），2014.

d-02. 横山　仁・大塚理奈・有泉高史・永山誓史・川住愛子・田村宏治：アフリカツメガエルにおける瘢痕を残さない皮膚再生 ―再生に寄与する細胞はどこから来るのか？―．再生医療学会（横浜市），2015.

d-03. 大塚理奈・有泉高史・永山誓史・川住愛子・田村宏治・横山　仁：アフリカツメガエルにおける皮膚の完全再生に寄与する細胞の起源．日本動物学会東北支部大会（仙台市），2015.

d-04. 横山　仁：アフリカツメガエルを用いた皮膚再生の研究 ―これまでとこれから―．次世代両生類研究会（岡崎市），2015.

d-05. 横山　仁・川住愛子・林　利憲・小林託也・永山誓史・林　真一・亀井保博・森下喜弘・竹内　隆・田村宏治：ツメガエルにおける局所的な遺伝子発現の操作法の確立と再生研究への応用．日本ツメガエル研究集会（秋田市），2015.

栗田　大輔

a-01. Kurita, D., Y. Chadani, A., Muto, T., Abo, H. Himeno: ArfA recognizes the lack of mRNA in the mRNA channel after RF2 binding for ribosome rescue. Nucleic Acids Research, 42: 13339–13352, 2014.

a-02. Himeno, H., N. Nameki, D. Kurita, A. Muto, T. Abo: Ribosome rescue systems in bacteria. Biochimie. 114: 102–112, 2015.

d-01. 栗田大輔・武藤　昱・阿保達彦・姫野俵太：ArfAとRF2による翻訳停滞リボソームの解消機構の解明．第3回Ribosome meeting（宮崎青島温泉），2015.

d-02. 栗田大輔・武藤　昱・阿保達彦・姫野俵太：ArfA/RF2による翻訳停滞解消機構の解析．第17回日本RNA学会年会（札幌市），2015.

畠山　幸紀

f-01. 畠山幸紀：教育用webサイトの公開（更新）．http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/celltech/specimen/DEEPZOOM/, 2015.

f-02. 畠山幸紀：講義用webサイトの公開．https://lms11.stu.hirosaki-u.ac.jp/moodle/course/category.php?id=15（学内限定），2014.

【応用生命コース】

大町　鉄雄

a-01. Isezaki, N., A. Sekiba, S. Itagaki, K. Nagayama, H. Ochiai, T. Ohmachi: *Dictyostelium* acetoacetyl-CoA thiolase is a dual-localizing enzyme that localizes to peroxisomes, mitochondria, and the cytosol. Microbiol. 161: 1471–1484, 2015.

d-01. 関場惇史・板垣祥子・木村祐紀・長山耕己・落合　廣・大町鉄雄：細胞性粘菌acetoacetyl-CoA thiolaseの細胞内局在性に関するN-末端領域シグナルと局在化機構について．日本細胞性粘菌学会例会（仙台市），2014.

d-02. 落合　廣・福澤雅志・長山耕己・大町鉄雄：*Polysphondylium pallidum* WS320の日本保存株には欧州株にない多くの変異がある ―ダーウィン進化論への補足？―．日本細胞性粘菌学会例会（弘前市），2015.

d-03. 相馬大輝・木村祐紀・三浦夏帆・佐々木璃子・落合　廣・大町鉄雄：細胞性粘菌におけるperoxisomal protease Tysnd1の構造解析と発現について．日本細胞性粘菌学会例会（弘前市），2015.

吉田　孝

a-01. Ogawa, S., K. Shiota, T. Yoshida: Improvement of the Glucose Tolerance of Oligo-1, 6-glucosidase from *Geobacillus thermoglucosidasius*. J. Appl. GLycosci. 62: 21–24, 2015.

d-01. 佐藤将太・児島　薫・吉田　孝：半身萎凋病菌 *Verticillium dahliae* 由来エンドプセッシブ型キシログルカナーゼの酵素特性．日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学），2015.

坂元　君年

a-01. Siregar, E.J., G. Kurisu, T. Kobayashi, M. Matsuzaki, K. Sakamoto, F. Mi-ichi, Y. Watanabe, M. Hirai, H. Matsuoka, D. Syafruddin, S. Marzuki, K. Kita: Direct evidence for the atovaquone action on the Plasmodium cytochrome bc1 complex. Parasitology International 64: 295–300, 2015.

a-02. Sonoki, T., M. Morooka, K. Sakamoto, Y. Otsuka, M. Nakamura, J. Jellison, B. Goodell: Enhancement of protocatechuate decarboxylase activity for the effective production of muconate from lignin-related aromatic compounds. Journal of Biotechnology 192: 71–77, 2014.

b-01. 大森淳子・坂元君年・北　潔：High Resolution Clear Native 電気泳動法を用いた回虫ミトコンドリア呼吸鎖酵素の解析．寄生虫学研究 方法と材料 2014年版（編集：高宮信三郎）．三恵社：157–161, 2014.

d-01. 鎌田紗綾・杉山友康・坂元君年：淡水産プラナリアのもつユビキノン類の分析．第87回日本生化学会大会（京都市）, 2014.

d-02. 室川聡大・櫻田拓也・坂元君年：淡水性プラナリアからのミトコンドリア単離．第87回日本生化学会大会（京都市）, 2014.

園木　和典

a-01. Le. J., Y. Zhu, L. Zhuang, Y. Otsuka, M. Nakamura, B. Goodell, T. Sonoki, J. He: A novel approach to recycle bacterial culture waste for fermentation reuse via a microbial fuel cell-membrane bioreactor system. Bioprocess and Biosystems Engineering. 38: 1795–1802, 2015.

a-02. Sato, O., Y. Suzuki, Y. Sato, S. Sasaki, T. Sonoki. Water-insoluble material from apple pomace makes changes in intracellular NAD+/NADH ratio and pyrophosphate content and stimulates fermentative production of hydrogen. Journal of Bioscience and Bioengineering. 119: 543–547, 2014.

a-03. Sonoki, T., M. Morooka, K. Sakamoto, Y. Otsuka, M. Nakamura, J. Jellison, B. Goodell: Enhancement of protocatechuate decarboxylase activity for the effective production of muconate from lignin-related aromatic compounds. Journal of Biotechnology. 192: 71–77, 2014.

a-04. Jindo, K., H. Mizumoto, Y. Sawada, M.A. Sanchez-Monedero, T. Sonoki: Physical and chemical characterizations of biochars derived from different agricultural residues. Biogeosciences. 11: 6613–6621, 2014.

d-01. 阿部友美・伊藤叶裕・松坂惇史・園木和典・伊藤幸博：稲わらの糖化性の器官および収穫時期による差異．日本育種学会講演会（新潟市）, 2015.

d-02. 諸岡深雪・今　仁志・園木和典：プロトカテキュ酸脱炭酸反応の強化とリグニン系芳香族化合物を原料としたcis, cis-ムコン酸生産へのアプローチ．日本農芸化学会2015年大会（岡山大学）, 2015.

d-03. 阿部友美・高橋裕貴・園木和典・伊藤幸博：稲わらの器官および発育ステージによる酵素糖化性の差異．日本分子生物学会年会（横浜）, 2014.

d-04. 市川　晋・古川佳世子・園木和典・伊藤幸博：老化誘導プロモーターを用いたハイブリッドセルラーゼ発現イネの糖化性の向上．日本分子生物学会年会（横浜市）, 2014.

d-05. Abe, T., Y. Takahashi, T. Sonoki, Y. Ito: Saccharification yields of rice straw at various developmental stages. 12th International Symposium on Rice Functional Genomics, Tucson, 2014.

e-01. 園木和典：平成26年度弘前大学若手研究者支援事業実績報告書, 2015.

f-01. 今　仁志・園木和典：非可食バイオマスから有用基幹化合物を生産する微生物触媒の開発．ケミカルエンジニヤリング．60(10): 35–39, 2015.

殿内　暁夫

a-01. 斎藤輝明・殿内暁夫・原田幸雄：ムキタケ *Sarcomyxa edulis* comb. nov. とオソムキタケ（新称）*S. serotina* の生物学特徴と分子系統解析．日本菌学会会報．55: 19–128, 2014.

a-02. Horino, H., M. Ito, A. Tonouchi: *Clostridium oryzae* sp. nov., from the soil of a Japanese rice field. Int. J. Syst. Evol. Microbiol. 65: 943–951, 2015.

a-03. Ito, A., H. Maeda, A. Tonouchi, M. Hashimoto: Relative and absolute structure of Phomolide C. Biosci. Biotechnol. Biochem. 79: 1067–1069, 2015.

b-01. 原田幸雄・殿内暁夫・宮入一夫・山岸洋貴：白神自然観察園のきのこ(5). 弘前大学白神自然環境研究所, 2015.
d-01. 松尾平三・蛭名一貴・殿内暁夫：白神山地土壌に生息する細菌群集構造解析と難培養性細菌の分離に関する研究. 環境微生物学系合同大会（浜松市), 2014.
d-02. 李　娟・海野裕晃・殿内暁夫：白神山地の樹木の表面に生息する細菌に関する研究. 環境微生物学系合同大会（浜松市), 2014.
d-03. 伊藤　厚・殿内暁夫・橋本　勝：「Phomolide Cの相対及び絶対配置の決定」. 日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学), 2015.
d-04. 伊藤　厚・殿内暁夫・橋本　勝：「Phomolide Cの相対及び絶対配置の決定」. 第10回化学生態学研究会（函館市), 2015.
f-01. 殿内暁夫：青森県立郷土館特別展「発酵食品パワー・ミクロのシェフとあおもり食文化」微生物写真提供, 2014.
f-02. 殿内暁夫：弘前大学白神酵母研究報告. 弘前産官学連携フォーラム 2014年度第2回白神酵母研究会, 2015.
f-03. 殿内暁夫・森山裕理子：弘前大学白神酵母研究報告. 弘前産官学連携フォーラム 2015年度第1回白神酵母研究会, 2015.

濱田　茂樹

a-01. Suzuki, Y., K. Miura, A. Shigemune, H. Sasahara, H. Ohta, Y. Uehara, T. Ishikawa, S. Hamada, K. Shirasawa: Marker-assisted breeding of a LOX-3-null rice line with improved storability and resistance to preharvest sprouting. Theor. Appl. Genet., 128: 1421–1430, 2015.
a-02. Hamada, S., K. Toda, S. Ogawa, K. Kubota, K. Miyairi: Characterization of the effects of C-terminal pro-sequence on self-inactivation of *Stereum purpureum* endopolygalacturonase I. FEMS Microbiol. Lett. 362(17), DOI: http://dx.doi.org/10.1093/femsle/fnv134, 2015.
d-01. 鈴木保宏・荒木悦子・濱田茂樹：米粉利用に適する品質特性の解明と好適品種の選定　～米麹やプロテアーゼを用いた100％米粉パンの製造～. 日本穀物科学研究会例会（神戸女子大), 2015.
d-02. 荒木悦子・濱田茂樹・鈴木保宏：添加するプロテアーゼの質と量がグルテンフリー米粉パンの膨らみに与える影響. 日本育種学会講演会（玉川大学), 2015.
d-03. 永田俊文・長谷川陽一・濱田茂樹・熊丸敏博・松坂弘明・鈴木保宏：米の主要なトリアシルグリセロールリパーゼの同定と酵素化学的特性の解明. 日本育種学会講演会（玉川大学), 2015.
d-04. 荒木悦子・濱田茂樹・鈴木啓太郎・鈴木保宏：プロテアーゼ処理米粉乾燥粉末を用いたグルテンフリー米粉パンの簡易製造. 日本食品科学工学会大会（京都大学), 2015.
e-01. 濱田茂樹：平成26年度弘前大学若手研究者支援事業実績報告書, 2015.
e-02. 濱田茂樹：地域資源利活用教育研究センター2014年度活動報告書, 2015.
f-01. 濱田茂樹：米粉パンに適した米粉の適性とは？. アグリ・カレッジ（弘前大学), 2015.

【生物資源学科】

【食料開発コース】

石川　隆二

a-01. Castillo, C., K. Tanaka, Y-I Sato, R. Ishikawa, B. Bellina, C. Higham, N, Chang, R. Mohanty, M. Kajale, D. Fuller: Archaeogenetic study of prehistoric rice remains from Thailand and India: evidence of early *japonica* in South and Southeast Asia. Archae. Anthrop. Sci. DOI 10.1007/s12520-015-0236-5, 2015.

a-02. Tanaka, K., N Kamijo, H Tabuchi, K Hanamori, R Matsuda, J Suginomori, Y-I Sato, T Udatsu, R Ishikawa: Morphological and molecular genetics of ancient remains and modern rice confirm diversity in ancient Japan. Genetic Resources and Crop Evolution. Genet. Resour. Crop Evol. DOI 10.1007/s10722-015-0262-2, 2015

d-01. 田村紀子・斎藤聖也・H.T.T. Pham・T.L. Nguyen・D.T. Lam・B.B. Chi・石川隆二：NGS情報を利用したベトナム野生イネ遺伝資源の評価．日本育種学会第127回春季大会（玉川大学), 2015.

d-02. 石川隆二：与論島におけるカンキツ遺伝資源の解析：イシカタ（6月ミカン）多様性．日本育種学会第128回秋季大会（新潟大学), 2015.

d-03. 田村紀子・中村郁郎・真壁　壮・鳥山 欽哉・五十嵐圭介・H.T.T. Pham・T.L. Nguyen・D.T. Lam・B.B. Chi・石川隆二：ベトナム・メコン川デルタ地帯の野生イネ遺伝的多様性に関する研究．日本育種学会秋季大会（新潟大学), 2015.

d-04. 石川隆二：日本人が受容したイネ．日本育種学会市民公開シンポジウム「作物の起源と人が育てた栽培植物 ―研究と探索からの日本の食と花文化再考―．日本育種学会秋季大会（新潟大学), 2015.

千田　峰生

a-01. Yamaguchi, N., H. Kurosaki, M. Ishimoto, M. Kawasaki, M. Senda and T. Miyoshi: Early-maturing and chilling-tolerant soybean lines derived from crosses between Japanese and Polish cultivars. Plant Production Science. 18: 234–239, 2015.

a-02. Yamaguchi, N., F. Taguchi-Shiobara, T. Sayama, T. Miyoshi, M. Kawasaki, M. Ishimoto and M. Senda: Quantitative trait loci associated with tolerance to seed cracking under chilling temperature in soybean. Crop Science. 55: 2100–2107, 2015.

d-01. 平岡未帆・松澤めぐみ・川崎通夫・千田峰生：プロアントシアニジン特異的染色剤を用いたダイズ種皮着色物質の組織化学的観察．東北育種研究集会（岩手大学), 2014.

d-02. 佐藤孝誠・菊池彰夫・湯本節三・千田峰生：黄ダイズ栽培集団中に見出された鞍掛突然変異体についての解析Ⅱ．鞍掛突然変異体と黄ダイズ間のF2植物における鞍掛着色形質の分離について．東北育種研究集会(岩手大学), 2014.

d-03. 平岡未帆・松澤めぐみ・川崎通夫・千田峰生：ダイズ種皮におけるCHS遺伝子発現部位の組織学的解析．平成26年度 日本育種学会・日本作物学会 北海道談話会（酪農学園大学), 2014.

d-04. 千田峰生・平岡未帆・山口直矢：ダイズ低温裂開を引き起こす低温処理開始時期についての検討．日本育種学会講演会（玉川大学), 2015.

d-05. 山口直矢・黒崎英樹・青山聡・石本政男・三好智明・千田峰生：ポーランドのダイズ品種を用いた早生耐冷性系統の開発と早生に関与するゲノム領域の推定．日本育種学会講演会（玉川大学), 2015.

戸羽　隆宏

d-01. 田中千景・山田滉介・竹内保浪・柏木明子・戸羽隆宏：*Pseudomonas costantinii*および*Serratia liquefaciens*に感染するバクテリオファージの生乳からの分離．日本畜産学会大会（酪農学園大学), 2015.

f-01. 小山浩子・戸羽隆宏：ミルクフェスティバルin弘前にて小山浩子氏と対談講演会（弘前総合学習センター), 2015.

柏木　明子

a-01. Kashiwagi, A., H. Kitamura, F. Tsushima-Sano: Characterization of a single mutation in TraQ in a strain of *Escherichia coli* partially resistant to Qβ infection. Frontiers in Microbiology. 6: article 124, 2015.

d-01. 柏木明子・塚田幸治・四方哲也：QβファージのRNA複製酵素に依存する宿主増殖系の確立．日本進化学会大会（中央大学), 2015.

d-02. 柏木明子：実験室内進化系でのRNAバクテリオファージのゲノム変化．化学工学会第47回秋季大会．招待講演（北海道大学），2015.
d-03. 田中千景・山田滉介・竹内保浪・柏木明子・戸羽隆宏：*Pseudomonas costantinii*および*Serratia liquefaciens*に感染するバクテリオファージの生乳からの分離．日本畜産学会大会（酪農学園大学），2015.
e-01. 柏木明子：戦略的創造研究推進事業四方動的微小反応場プロジェクト（科学技術振興機構）．研究成果報告書. 2015.
e-02. 柏木明子・園木典則・笹部美知子・坂元君年：学長指定若手重点研究報告書. 2015.

前多　隼人

a-01. Maeda H., R. Hosomi, M. Koizumi, Y. Toda, M. Mitsui, K. Fukunaga: Dietary cod protein decreases triacylglycerol accumulation and fatty acid desaturase indices in the liver of obese type-2 diabetic KK-Ay mice. Journal of Functional Foods. 14: 87–94, 2015.
a-02. Maeda H.: Nutraceutical effects of fucoxanthin for obesity and diabetes therapy: A Review. Journal of Oleo Science. 64(2): 125–132, 2015.
a-03. Maeda H., S. Kanno, M. Kodate, M. Hosokawa, K. Miyashita: Fucoxanthinol, Metabolite of Fucoxanthin, Improves Obesity-Induced Inflammation in Adipocyte Cells. Marine drugs. 13(8): 4799–4813, 2015.
a-04. 似内菜月・柿崎かおり・鬼頭　薫・前多隼人・大河　浩：青森県域におけるストレス耐性微細藻の単離：形態·生理特性 I．白神研究．10号：3–10, 2015.
a-05. Islam M.N., H. Maeda, M. Kawasaki: Effect of Calcium Concentration in Growth Medium on Oxalate Content and Evaluation of the Role of Guttation in the Regulation of Oxalate in Eddo. Plant Production Science. 18(4): 464–470, 2015.
a-06. Honmura Y., H. Takekawa, K. Tanaka, H. Maeda, T. Nehira, W. Hehre, M. Hashimoto: Computation-Assisted Structural Elucidation of Epoxyroussoeone and Epoxyroussoedione Isolated from Roussoella japanensis KT1651. Journal of natural products. 78(7): 1505–1510, 2015.
a-07. Ito A., H. Maeda, A. Tonouchi, M. Hashimoto: Relative and absolute structure of phomolide C. Biosci. Biotechnol. Biochem. 79(7): 1067–1069, 2015.
a-08. Arayama M., T. Nehira, H. Maeda, K. Tanaka, H. Miyagawa, T. Ueno, S. Hosokawa, M. Hashimoto: Isolation, ECD assisted structural analyses, biosynthetic discussions, and biological activities of epi-cochlioquinones D and its derivatives. Tetrahedron. 71(29): 4788–4794, 2015.
a-09. Nanashima N., K. Horie, T. Tomisawa, M. Chiba, M. Nakano, T. Fujita, H. Maeda, M. Kitajima, S. Takamagi, D. Uchiyama, J. Watanabe, T. Nakamura, Y. Kato: Phytoestrogenic activity of blackcurrant (*Ribes nigrum*) anthocyanins is mediated through estrogen receptor alpha. Molecular nutrition & food research, 2015.
b-01. 前多隼人：大学ブランドの食品開発 弘前大学における食の取り組み．季刊 栄養教諭．37号：54–59, 2014.
b-02. 前多隼人：国際油脂関連情報 Inform, Vol.25, No.8 (2014)．オレオサイエンス．15巻1号：40–40, 2015.
b-03. 前多隼人：国際油脂関連情報 Inform, Vol.26, No.1 (2015)．オレオサイエンス．15巻6号：278–278, 2015.
b-04. 前多隼人・田　宇・福田麻理・松本和浩：地域資源からの機能性食品素材の探索．機能性食品と薬理栄養．9巻2号：67–72, 2015.
b-05. 前多隼人：国際油脂関連情報 Inform, Vol.26, No.2 (2015)．オレオサイエンス．15巻7号：328–328, 2015.
b-06. 前多隼人：国際油脂関連情報 Inform, Vol.26, No.3 (2015)．オレオサイエンス．15巻8号：390–390, 2015.
b-07. 前多隼人：国際油脂関連情報 Inform, Vol.26, No.4 (2015)．オレオサイエンス．15巻9号：445–445, 2015.
c-01. 前多隼人：りんごのすすめ．JAつがる弘前広報誌「いぶき」．平成26年11月号　vol.124, 2014.
c-02. 前多隼人：年会実行委員会企画シンポジウム「若手が語る：油脂の機能性研究の将来」を終えて．オレオサイエンス．15巻1号：36–37, 2015.
c-03. 前多隼人：地域発! ご当地研究最前線．健康365．12巻4号：160–161, 2015.
c-04. 前多隼人：地域発! ご当地研究最前線．健康365．12巻9号：160–161, 2015.
c-05. 前多隼人：地域発! ご当地研究最前線．健康365．12巻10号：162–163, 2015.
c-06. 前多隼人：ムック野菜の健康パワーをおいしく上げるレシピ129．日経BPムック.: 49–49, 2015
d-01. 堂黒翔太・梶　直人・阿孫健一・前多隼人：α-リノレン酸高含有リン脂質による非アルコール性脂肪肝炎改善作用．日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学），2015.
d-02. 伊藤　厚・殿内暁男・前多隼人・橋本　勝：phomolide Cの相対及び絶対配置の決定．日本農芸化学会2015年度

大会（岡山大学）, 2015.

d-03. 荒山美紀・田中和明・前多隼人・根平達夫・橋本　勝：新規*epi*-cochlioquinone誘導体とその生合成前駆体の単離と構造．日本農芸化学会2015年度大会（岡山大学）, 2015.

d-04. 前多隼人：海藻に含まれるフコキサンチンを中心としたキサントフィルの機能性．2015年度日本農芸化学会東北支部シンポジウム（岩手大学）, 2015.

d-05. 前多隼人・福田麻理・戸田裕子・小泉光可・細見亮太・吉田宗弘・福永健治：種類の異なる魚肉タンパク質の投与による肥満モデルマウスの脂質代謝に対する効果．日本食品科学工学会大会（京都大学）, 2015.

d-06. 戸田裕子・福田麻理・細見亮太・前多隼人・吉田宗弘・福永健治：白身および赤身魚由来タンパク質の給餌がラットの脂質代謝に及ぼす影響．日本食品科学工学会大会（京都大学）, 2015.

e-01. 前多隼人：江戸川区産コマツナ＆青森県産りんごハンドブック（えどがわ農業産学公プロジェクト）, 2015.

e-02. 前多隼人：大間漁業協同組合・弘前大学共同研究「地域振興のための海洋資源活用に関する研究」報告書, 2015.

e-03. 前多隼人：JST研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ハイリスク挑戦タイプ（復興促進型）「黒ごぼうの機能性を生かした新製品の開発」完了報告書, 2015.

e-04. 前多隼人：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書　若手研究（B）「カロテノイドの吸収性に関与する脂肪酸の影響の解明」, 2015.

f-01. 前多隼人：第9回ビジネスマッチ東北2014「黒ごぼうの機能性を生かした新製品」（仙台）, 2014.

f-02. 前多隼人：アグリビジネス創出フェア2014「新しい食品「黒ごぼう」の機能性」（東京）, 2014.

f-03. 前多隼人：あおもりくろもじ精油の健康機能について（青森）, 2015.

f-04. 前多隼人：弘前大学高大連携公開講座 ひろだいナビゲートレクチャー（弘前）, 2015.

f-05. 前多隼人：第29期青森県りんご産業基幹青年委託事業講義（弘前）, 2015.

f-06. 前多隼人：弘前大学公開講座 ひろだいナビゲート･キャラバン in 八戸（八戸）, 2015.

【生産環境コース】

青山　正和

a-01. Aoyama, M.: Separation of acid-soluble constituents of soil humic acids by dissolution in alkaline urea solution and precipitation with acid. Chem. Biol. Technol. Agric. 2: 16, 2015.

b-01. 青山正和：農耕地での土壌有機物の動態と機能．農業技術体系・土壌施肥編（農文協）．第1巻, 追録第26号, 48の13：2–13, 2015.

b-02. 青山正和：農耕地での土壌有機物の動態と機能，最新農業技術 土壌施肥 vol.7（農文協）：53–64, 2015.

d-01. 青山正和：土壌有機物の機能（第30回大会記念シンポジウム「環境中に存在する天然有機物研究の過去と未来」）．日本腐植物質学会第30回講演会（日本大学）, 2014.

d-02. Aoyama, M.: Characterization of organic matter in density-size fractions of organically managed soils by diffuse reflectance infrared Fourier transform spectroscopy combined with NaClO oxidation. ISMOM2015 (Montreal, Canada), 2015.

d-03. 青山正和：有機栽培土壌から分離した比重画分有機物のNaClO酸化―DRIFT法による性状解析．日本土壌肥料学会京都大会（京都大学）, 2015.

佐野　輝男

a-01. Tsushima, T., Y. Matsushita, S. Fuji, T. Sano: First report of Dahlia latent viroid and Potato spindle tuber viroid mixed-infection in commercial ornamental dahlia in Japan. New Disease Reports 31: 11, 2015.

a-02. Matsushita, Y., Z. Bao, D. Kurose, H. Okada, S. Takemoto, A. Sawada, H. Nagase, M. Takano, H. Murakami, M. Koitabashi, S. Yoshida, M. Saito, T. Sano, S. Tsushima: Community structure, diversity, and species dominance of bacteria, fungi, and nematodes from naturally and conventionally farmed soil: a case study on Japanese apple orchards. Org. Agr. DOI 10.1007/s13165-015-0096-4, 2015.

a-03. Tsushima, T., Sano T: First report of Coleus blumei viroid 5 infection in vegetatively propagated clonal Coleus cv. 'Aurora black cherry' in Japan. New Disease Reports, 32, 7. [http://dx.doi.org/10.5197/j.2044-0588.2015.032.007], 2015.

a-04. Adkar-Purushothama, C.R., J.P. Perreault, T. Sano: Analysis of small RNA production patterns among the two potato spindle tuber viroid variants in tomato plants. Genomics Data 6: 65–66, S2213-5960(15)30002-7. doi:

10.1016/j.gdata.2015.08.008, 2015.

b-01. Adkar-Purushothama, C.J, Z-X. Zhang, S-F. Li, T. Sano: Chapter 12. Analysis and application of viroid-specific small RNAs generated by viroid-Inducing RNA silencing. In Methods in Molecular Biology 1236. Edited by Uyeda I and Masuta C. Plant Virology Protocols – New approaches to detect viruses and host responces 3rd Edition. 2014: 135–175, 2014.

b-02. 津田新哉・佐野輝男：近年の日本農業の脅威となる外来侵入植物ウイルス・ウイロイド．日植病報80巻 特集号：134–142. 2014.

b-03. 河野貴幸・水谷房雄・佐山春樹・高柳直幸・佐野輝男：カンキツウイロイドⅢ接種が‘宮川早生’ウンシュウミカンの樹体成長と果実品質に及ぼす影響．愛媛大学農学部農場報告．36：1–6, 2014.

d-01. 菅原康平・A.P.C. Raj・葛西厚史・山本英樹・山崎祐人・赫　英紅・高田展之・後藤英樹・新堂さほり・原田竹雄・佐野輝男：ウイロイド特異的スモールRNAを発現する形質転換ベンサミアーナタバコによるジャガイモやせいもウイロイドの感染遅延．平成27年度日本植物病理学会（明治大学), 2015.

d-02. 葛西鴻志・鈴木貴大・高橋諒大・山崎祐人・齊藤瑠衣・成田和子・藤林美里・佐野輝男：国内で発生しているApple dimple fruit viroid（ADFVd）の塩基配列と系統解析．平成27年度日本植物病理学会（明治大学), 2015.

d-03. 対馬太郎・佐野輝男：異なる分子内ループ構造を有するコリウスブルメイウイロイド1（CbVd-1）変異体の遺伝的安定性と種子伝染性の分析．平成27年度日本植物病理学会，東京都・明治大学駿河台キャンパス．平成27年3月31日, 2015.

d-04. 対馬大希・佐野輝男：ジャガイモやせいもウイロイド−ダリア株の可変及び右末端領域の塩基配列と病原性．平成27年度日本植物病理学会（明治大学), 2015.

d-05. Sano, T., T. Tsushima, D. Tsushima, M. Fujibayashi, T. Suzuki, C.R. Adkar-Purushothama, S. Li: Viroids and Viroid Diseases in Asia, 23rd International conference on virus and other graft transmissible diseases of fruit crops (Invited speaker). Morioka, Japan, 2015.

d-06. Tsushima, T., T. Sano: Analysis of genetic stability and seed transmission of Coleus blumei viroid 1 variants with different internal loop structures. International Conference on Viroids and Viroid-Like RNAs, České Budějovice, Czech Republic, 2015.

d-07. Li, S., Q. Lu, K. Sagawa, B. Navarro, F. Di Serio, T. Sano, T. Tsushima, Y. Kuai, W. Wang, Z. Wu, L. Xie: Molecular characterization of mulberry small circular RNA: a new species with a nature of satellite RNA showing hammerhead and new hairpin-like ribozyme activity. International Conference on Viroids and Viroid-Like RNAs, České Budějovice, Czech Republic, 2015.

d-08. Tsushima, D., T. Sano: Systemic accumulation and pathogenicity of Potato spindle tuber viroid is associated with the correlation between the right-hand half and the left-hand half of the molecule, International Conference on Viroids and Viroid-Like RNAs, České Budějovice, Czech Republic, 2015.

d-09. Matoušek, J.,K. Siglová, J. Jakše, S. Radišek, R. Piernikarczyk, T. Guček, G. Duraisamy, P. Svoboda, T. Sano, G. Steger: Propagation characteristics of hop isolate of Citrus bark cracking viroid and its compatibility to other viroids during primary infections of Humulus lupulus cv. Osvald's 72. International Conference on Viroids and Viroid-Like RNAs, České Budějovice, Czech Republic, 2015.

d-10. Adkar-Purushothama, C.R., A. Kasai, K. Sugawara, H. Yamamoto, Y. Yamazaki, Y-H. He, N. Takada, H. Goto, S. Shindo, T. Harada, T. Sano: Transgenic Nicotiana benthamiana expressing viroid-specific small RNAs derived from hotspot regions of various functional domains delays Potato spindle tuber viroid infection. International Conference on Viroids and Viroid-Like RNAs (Invited speaker), České Budějovice, Czech Republic, 2015.

d-11. 対馬大希・佐野輝男：ジャガイモやせいもウイロイド−ダリア株の弱毒性を特徴づける変異の解析．平成27年度日本植物病理学会東北部会（東北大学), 2015.

d-12. 鈴木貴大・C. Park・藤林美里・畑谷達児・H.S. Lim・佐野輝男：リンゴゆず果ウイロイド（AFCVd）ホップ，カキ分離株の感染性比較解析．平成27年度日本植物病理学会東北部会（東北大学), 2015.

比留間　潔

a-01. Kaneko, Y., and K. Hiruma: Short Neuropeptide F (sNPF) is a stage-specific suppressor for juvenile hormone biosynthesis by corpora allata, and a critical factor for the initiation of insect metamorphosis. Dev. Biol. 393: 312–319, 2014.

a-02. 高木圭子・渡会直人・金児　雄・比留間潔：新しいタイプの農薬開発：気門と腹脚のかぎ爪を阻害するイソチオ

シアネート化合物．東北蚕糸・昆虫利用研究報告 39: 15–20, 2014.

a-03. Shinoda, T., K. Hiruma, T. Shiotsuki: Preface. “Special Issue for Proceedings of the Tenth International Conference on Juvenile Hormones”. J. Insect Physiol. 80: 1, 2015.

a-04. Kaneko, Y., and K. Hiruma: Allatotropin inhibits juvenile hormone biosynthesis by the corpora allata of adult Bombyx mori. J. Insect Physiol. 80: 15–21, 2015.

a-05. Matsumoto, H., C. Ueno, Y. Nakamura, T. Kinjoh, Y. Ito, S. Shimura, H. Noda, S. Imanishi, K. Mita, H. Fujiwara, K. Hiruma, T. Shinoda, M. Kamimura: Identification of two juvenile hormone inducible transcription factors from the silkworm, Bombyx mori. J. Insect Physiol. 80: 31–41, 2015.

a-06. Suang, S., M. Manaboon, P. Chantawannakul, T. Singtripop, K. Hiruma, Y. Kaneko: Molecular cloning, developmental expression, and tissue distribution of diapause hormone and pheromone biosynthesis activating neuropeptide in the bamboo borer, Omphisa fuscidentalis. Physiol. Entomol. 40: 247–256, 2015.

d-01. 金児　雄・比留間潔：Verson’s glandにおける体節特異的なホルモン応答遺伝子の網羅的解析．日本応用動物昆虫学会（山形大学), 2015.

d-02. Hiruma, K. and Y. Kaneko: Pupal commitment of a single-celled Verson’s gland is induced in a two-step process by the insulin and TOR/Akt signals, which occurs gradually, not on an all-or-none basis. The 2nd International Insect Hormone Workshop. Kolymbari, Crete, Greece, 2015.

d-03. 金児　雄・高木圭子・熊野健太・田村　大・奈良岡留美・比留間潔：RNAシークエンスを用いたVerson’s gland蛹コミットメントに関与する遺伝子の探索．日本蚕糸学会大会（北海道大学), 2015

d-04. 高木圭子・野坂　涼・金児　雄・比留間潔：Telotrophic ovaryにおける濾胞の貧栄養状態下での細胞死の制御機構．日本蚕糸学会第85回大会（北海道大学), 2015.

e-01. 佐原　健・比留間潔・金児　雄：栄養とホルモンにより核のない精子分化は促進されるのか？―チョウ目昆虫における無核精子分化の分子メカニズムに挑む―．平成25年度　北東北国立3大学連携推進研究プロジェクト（区分A：プレリサーチ型).（岩手大学), 2014.

e-02. 比留間潔：研究生活40年．第3回北東北国立3大学連携昆虫科学研究セミナー（青森県平川市), 2015.

赤田　辰治

a-01. 鳥丸　猛・成田真智子・井頭千明・石田祐宣・伊藤大雄・赤田辰治：高倉森とサンスケ沢におけるブナの開花年次変動と気象要因および立地条件との相関解析．白神研究 10, 12–21, 2015.

d-01. 長内勇志・村山聡美・櫛引はるか・赤田辰治：ダイズにおける貧窒素栄養応答性*MYB101*の遺伝子機能に関する研究．東北育種研究集会（岩手大学), 2014.

d-02. 赤田辰治・髙橋　瑛・國嶋俊輔・森野祥多・松田修一：ブナの乾燥応答性R2R3-MYB1603に見られる高変異性の配列と実生の乾燥適応的成長の相関．日本分子生物学会年会（横浜市), 2014.

d-03. 國嶋俊輔・森野祥多・鳥丸　猛・赤田辰治：乾燥ストレス下におけるブナ実生の成長と葉の形態形成．東北植物学会（山形市), 2014.

d-04. 森野祥多・國嶋俊輔・赤田辰治：ブナの環境ストレス応答とABAシグナル伝達の関連性に関する研究．東北植物学会（山形市), 2014.

d-05. 福井忠樹・鳥丸　猛・赤田辰治：白神山地高倉森およびサンスケ沢における主要構成樹種の機能形質の比較．日本森林学会大会（札幌市), 2015.

d-06. 赤田辰治・國嶋俊輔・森野祥多・大宮泰徳・鳥丸　猛：産地の異なるブナ実生の乾燥条件下における成長量の変異とその遺伝的解析．日本森林学会大会（札幌市), 2015.

d-07. 鳥丸　猛・櫻井　創・赤田辰治・石田　清・檜垣大助：白神山地サンスケ沢ブナ天然林における森林動態．日本森林学会大会（札幌市), 2015.

d-08. 齋藤　晶・赤田辰治・西谷信一郎・松下通也・永松　大・鳥丸　猛：雌雄異株性低木種ヒメアオキの性特異的遺伝マーカーの開発．日本森林学会大会（札幌市), 2015.

田中　和明

a-01. Wijayawardene, N.N., P.W. Crous, P.M. Kirk, D.L. Hawksworth, S. Boonmee, U. Braun, D.Q. Dai, M.J. D’souza, P. Diederich, A. Dissanayake, M. Doilom, S. Hongsanan, E.B.G. Jones, J.Z. Groenewald, R. Jayawardena, J.D. Lawrey, J.K. Liu, R. Lücking, H. Madrid, D.S. Manamgoda, L. Muggia, M.P. Nelsen, R. Phookamsak, S. Suetrong, K. Tanaka, K.M. Thambugala, D.N. Wanasinghe, S. Wikee, Y. Zhang, A. Aptroot, H.A. Ariyawansa, A.H. Bahkali,

D.J. Bhat, C. Gueidan, P. Chomnunti, G.S. De Hoog, K. Knudsen, W.J. Li, E.C. McKenzie, A.N. Miller, A.J.L. Phillips, M. Piątek, H.A. Raja, R.S. Shivas, B. Slippers, J.E. Taylor, Q. Tian, Y. Wang, J.H.C. Woudenberg, L. Cai, W.M. Jaklitsch, K.D. Hyde KD: Naming and outline of Dothideomycetes—2014 including proposals for the protection or suppression of generic names. Fungal Diversity 69: 1–55, 2014.

a-02. Hashimoto, A., G. Sato, T. Matsuda, M. Matsumura, S. Hatakeyama, Y. Harada, H. Ikeda, K. Tanaka: Taxonomic revision of *Pseudolachnea* and *Pseudolachnella* and establishment of *Neopseudolachnella* and *Pseudodinemasporium* gen. nov. Mycologia 107: 383–408, 2015.

a-03. Liu, J.K., K.D. Hyde, E.B.G. Jones, H.A. Ariyawansa, D.J. Bhat, S. Boonmee, S.S.N. Maharachchikumbura, E.H.C. McKenzie, R. Phookamsak, C. Phukhamsakda, B.D. Shenoy, M.A. Abdel-Wahab, B. Buyck, J. Chen, K.W.T. Chethana, C. Singtripop, D.Q. Dai, Y.C. Dai, D.A. Daranagama, A.J. Dissanayake, M. Doilom, M.J. D'souza, X.L. Fan, I.D. Goonasekara, K. Hirayama, S. Hongsanan, S.C. Jayasiri, R.S. Jayawardena, S.C. Karunarathna, W.J.Li, A. Mapook, C. Norphanphoun, K.L. Pang, R.H. Perera, D. Peršoh, U. Pinruan, I.C. Senanayake, S. Somrithipol, S. Suetrong, K. Tanaka, K.M. Thambugala, Q. Tian, S. Tibpromma, D. Udayanga, N.N. Wijayawardene, D. Wanasinghe, K. Wisitrassameewong, X.Y. Zeng, F.A. Abdel-Aziz, S. Adamčík, A.H. Bahkali, N. Boonyuen, T. Bulgakov, P. Callac, P. Chomnunti, K. Greiner, A. Hashimoto, V. Hofstetter, J.C. Kang, D. Lewis, X.H. Li, X.Z. Liu, X.Y. Liu, M. Matsumura, P.E. Mortimer, G. Rambold, E. Randrianjohany, G. Sato, V. Sri-Indrasutdhi, C.M. Tian, A. Verbeken, W. von Brackel, Y. Wang, T.C. Wen, J.C. Xu, J.Y. Yan, R.L. Zhao, E. Camporesi: Fungal diversity notes 1–110: taxonomic and phylogenetic contributions to fungal species. Fungal Diversity 72: 1–197, 2015.

a-04. Arayama, M., T. Nehira, H. Maeda, K. Tanaka, H. Miyagawa, T. Ueno, S. Hosokawa, M. Hashimoto: Isolation, ECD assisted structural analyses, biosynthetic discussions, and biological activities of epi-cochlioquinones D and its derivatives. Tetrahedron 71: 4788–4794, 2015.

a-05. Honmura, Y., H. Takekawa, K. Tanaka, H. Maeda, T. Nehira, H. Warren, M. Hashimoto: Computation-Assisted Structural Elucidation of Epoxyroussoeone and Epoxyroussoedione Isolated from Roussoella japanensis KT1651. Journal of Natural Products 78: 1505–1510, 2015.

a-06. Raja, H.A., T. El-Elimat, N.H. Oberlies, C.A. Shearer, A.N. Miller, K. Tanaka, A. Hashimoto, J. Fournier: Minutisphaerales (Dothideomycetes, Ascomycota): a new order of freshwater ascomycetes including a new family, Minutisphaeraceae, and two new species from North Carolina, USA. Mycologia 107: 845–862, 2015.

d-01. Miller, A.N., N.P. Nguyen, T. Warnow, C.L. Schoch, M. Réblová, E.B.G. Jones, X.W. de Beer, N. Boonyuen, P.W. Crous, T.A. Duong, A. Ferrer, A. Hashimoto, M. Hernández-Restrepo, S.M. Huhndorf, K.D. Hyde, Å. Kruys, E. Kuhnert, L. Lombard, J.J.D. Luangsa-ard, J. Luo, S. Maharachchikumbura, Y. Marin-Felix, M. Matsumura, K.L. Pang, H.A. Raja, J. Sakayaroj, C.A. Shearer, M. Stadler, A.M. Stchigel, S. Sueterong, K. Tanaka, M.A. Abdel-Wahab, L. Wendt, B.D. Wingfield, M.J. Wingfield, S.E. Zelski, N. Zhang: Overview of Sordariomycetes. Second International Workshop on Ascomycete Systematics, Amsterdam, 22 April 2015.

d-02. 服部友香子・中島千晴・田中和明・本橋慶一：ヒノキ科樹木3属に寄生する*Phoma pilispora*の分類学的再検討とエピタイプの確立．日本菌学会大会（那覇市), 2015.

d-03. 松村美里・加藤　航・橋本　陽・R.K. Schumacher・髙橋由紀子・白水　貴・田中和明：ブナ属に寄生する*Neohendersonia*属菌の分類学的検討（2）．日本菌学会大会（那覇市), 2015.

d-04. 田中和明・秋山　楓・中村史哉・松村美里・橋本　陽・R.K. Schumacher・髙橋由紀子・細矢　剛：日本およびヨーロッパにおけるブナ属寄生菌類の比較．日本菌学会大会（那覇市), 2015.

d-05. 橋本　陽・田中和明：*Cryptocoryneum*属菌の分類学的再検討．日本菌学会大会（那覇市), 2015.

d-06. 西田　崇・村田一弘・石田恭子・望月清文・砂田淳子・浅利誠志・大楠清文・田中和明：*Roussoella* sp.による角膜真菌症の1例．日本眼感染症学会.（大阪市), 2015.

松山　信彦

a-01. 佐藤博友・古川真裕・松山信彦：接触施肥量の違いがつがるロマンの生育・収量に及ぼす影響．日本作物学会東北支部会報．57：31–32, 2014.

a-02. 三枝正彦・村田康助・松山信彦：台湾におけるマコモの周年栽培．日本作物学会東北支部会報．57：51–52, 2014.

d-01. 松山信彦・千秋　恵・佐々木長市：接触施肥量の違いが水稲の生育・収量に及ぼす影響．2015年日本土壌肥料学会講演会, 2015.

d-02. 松山信彦・菅野均志・齋藤雅典：「全国6支部の小・中・高校生及び大学生に対する土壌アンケート調査結果の集計・

分析から土壌教育を考える」―東北支部における事例報告―．2015年日本土壌肥料学会講演会, 2015.

d-03. 李　松濤・加藤千尋・佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦：カドミウム汚染畑における地下水位ダイズの生育・収量およびカドミウム吸収に及ぼす影響．2015年農業農村工学会講演会, 2015.

金児　雄

a-01. Kaneko, Y., K. Hiruma: Allatotropin inhibits juvenile hormone biosynthesis by the corpora allata of adult Bombyx mori. J. Insect Physiol. 80: 15–21, 2015.

a-02. Suphawan, S., M. Manaboon, P. Chantawannakul, S. Tippawan, K. Hiruma, Y. Kaneko: Molecular cloning, developmental expression and tissue distribution of diapause hormone and pheromone biosynthesis activating neuropeptide in the bamboo borer Omphisa fuscidentalis. Physiol. Entomol. 40: 247–256, 2015.

a-03. 高木圭子・渡会直人・金児　雄・比留間潔：新しいタイプの農薬開発―気門と腹脚のかぎ爪を阻害するイソチオシアネート化合物―．東北蚕糸・昆虫利用研究報告．39: 15–20, 2014.

d-01. 金児　雄，比留間潔：Verson's glandにおける体節特異的なホルモン応答．日本応用動物昆虫学会大会（山形大学), 2015.

d-02. 金児　雄・高木圭子・熊野健太・田村　大・奈良岡留美・比留間潔：RNAシークエンスを用いたベルソン氏腺蛹コミットメントに関与する遺伝子の探索．蚕糸・昆虫機能利用学術講演会．日本蚕糸学会大会（北海道大学), 2015.

d-03. 高木圭子・野坂　涼・金児　雄・比留間潔：Telotrophic ovaryにおける濾胞の貧栄養状態下での細胞死の制御機構．蚕糸・昆虫機能利用学術講演会．日本蚕糸学会大会（北海道大学), 2015.

d-04. Hiruma, K., Y. Kaneko: upal commitment of a single-celled Verson's gland is induced in a two-step process by the insulin and TOR/Akt signals, which occurs gradually, not on an all-or-none basis. Insect Hormone Workshop (Crete, Greece), 2015.

【園芸農学科】

【園芸農学コース】

荒川　修

b-01. 荒川　修：果樹園芸学．第3章　リンゴ（分担執筆）．金浜耕基編（文永堂出版, 東京）: 59, 2015.

d-01. Prompong, P., O. Arakawa, S. Kikuya, K. Mori, N. Tanaka: Effect of blue light on anthocyanins composition in apple skin. 園芸学会（千葉大学）．園学研. 14別1: 264, 2015.

d-02. 太田宇則・田中紀充・伊藤大雄・荒川　修：リンゴ培養体における倍数体獲得の効率的な培地の検討．園芸学会（佐賀大学）．園学研. 14別1: 265, 2015.

鈴木　裕之

a-01. Fang, J., Y. Cao, M. Matsuzaki and H. Suzuki: Effects of apple pomace proportion levels on the fermentation quality of total mixed ration silage and its digestibility, preference and ruminal fermentation in beef cows. Animal Science Journal. doi: 10.1111/asj.12410, 2015.

b-01. Suzuki, H.: Chapter. 7. Cytoskeleton and regulation of mitochondrial translocation in the mammalian eggs. In: Schatten H (ed.) The Cytoskeleton in Health and Disease: 169–186. Springer-Verlag New York Inc, New York. ISBN: 978-1-4939-2903-0 (Print) 978-1-4939-2904-7 (Online). DOI: 10.1007/978-1-4939-2904-7_7, 2015.

b-02. Suzuki, H.: Chapter 13. Possible functions of intermediate filaments in mammalian ovarian follicles and oocytes. In: Schatten H (ed.) The Cytoskeleton in Health and Disease: 307–333. Springer-Verlag New York Inc, New York. ISBN: 978-1-4939-2903-0 (Print) 978-1-4939-2904-7 (Online). DOI: 10.1007/978-1-4939-2904-7_13, 2015.

d-01. 鈴木裕之・塩崎洋輔・佐藤大樹・佐藤　梓・滝浦　舞・房　家琛・松﨑正敏：ブタ卵母細胞における中間径線維 Neurofilament, GFAPおよびNestinの分布と機能．日本畜産学会大会（宇都宮大学）, 2015.

d-02. 松﨑正敏・Islam Shilpi・李　美玲・房　家琛・鈴木裕之：アルコール発酵型リンゴ粕サイレージ給与がめん羊肝臓における糖新生関連酵素の遺伝子発現に及ぼす影響．日本畜産学会大会（宇都宮大学）, 2015.

d-03. 鈴木裕之・隅田まなみ・房　家琛・松﨑正敏：中間径線維デスミンはブタ卵母細胞の表層で起こる減数分裂の進行に関与する．日本畜産学会大会（酪農学園大学）, 2015.

d-04. 木村　中・房　家琛・鈴木裕之・松﨑正敏：新生子めん羊への初乳製剤液の追加給与がその後の増体，採食量，血中成分および臓器重量に及ぼす影響．日本畜産学会大会（酪農学園大学）, 2015.

張　樹槐

a-01. Ye, X., Y. Shi and S. Zhang: Non-Destructive Prediction of Hardness and Carotenoid Content of Carrots Using Hyperspectral Imaging, Agricultural Research Updates, Volume 12, Chapter 3, ISBN: 978-1-63483-967-9, Nova Science Publishers, 2015.

d-01. 張　樹槐・石　玥・叶　旭君：分光計測に基づくニンジン内部品質の非破壊的推定に関する研究．農業環境工学関連5学会2015年合同大会（CD-ROM）, 盛岡市, 2015.

d-02. 何　少青・片岡　崇・張　樹槐・柴田洋一：垣根仕立てブドウ機械収穫の研究（第3報）―穂梗検出の画像処理―．農業環境工学関連5学会2015年合同大会（CD-ROM）, 盛岡市, 2015.

d-03. 叶　旭君・飯野加奈子・張　樹槐：匂いセンサとハイパースペクトルカメラを利用した鶏肉鮮度の判定と可視化．農業環境工学関連5学会2015年合同大会（CD-ROM）, 盛岡市, 2015.

d-04. 岡本泰宏・叶　旭君・張　樹槐：分光反射情報によるアスパラガスの硬度の非破壊的予測に関する研究．平成27年度農業食料工学会東北支部大会研究発表会要旨集：25–26（秋田市）, 2015.

d-05. 岸浪行佑・張　樹槐・叶　旭君：分光反射情報を利用した魚肉表面の清浄度予測に関する研究．平成27年度農業食料工学会東北支部大会研究発表会要旨集：27–28（秋田市）, 2015.

d-06. 何　少青・片岡　崇・柴田洋一・張　樹槐：画像処理による垣根仕立てブドウ果実の検出．平成27年度農業食料工学会北海道支部大会研究発表会要旨集：36–37（江別市）, 2015.

d-07. Ye, X., K. Iino, S. Zhang, S. Oshita: Nondestructive Monitoring of Chicken Meat Freshness Using Hyperspectral Imaging Technology, 7th Workshop on Hyperspectral Image and Signal Processing: Evolution in Remote Sensing, Tokyo, 2015.

松﨑　正敏

a-01. Islam S., M.N. Islam, M. Matsuzaki: Apple pomace silage ethanol intake and its effect on sheep. Bangladesh Journal of Animal Science, 43(3): 224–231, 2014.

a-02. Fang J., Y. Cao, M. Matsuzaki, H. Suzuki: Effects of apple pomace proportion levels on the fermentation quality of total mixed ration silage and its digestibility, preference and ruminal fermentation in beef cows. Animal Science Journal, DOI: 10.1111/asj.12410, 2015.

b-01. 松﨑正敏：第8章 副産資源，8）りんご粕，木村信熙ほか監修，飼料特性を理解して上手に設計に活かす．デーリィ・ジャパン社：297–302, 2014.

d-01. 鈴木裕之・塩崎洋輔・佐藤大樹・佐藤　梓・滝浦　舞・房　家琛・松﨑正敏：ブタ卵母細胞における中間径線維 Neurofilament，GFAPおよびNestinの分布と機能．日本畜産学会大会（宇都宮市），2015.

d-02. 松﨑正敏・イスラム シルピー・李　美玲・房　家琛・鈴木裕之：アルコール発酵型リンゴ粕サイレージがめん羊肝臓における糖新生関連酵素の遺伝子発現に及ぼす影響．日本畜産学会大会（宇都宮市），2015.

d-03. 鈴木裕之・隅田まなみ・房　家琛，松﨑正敏：中間径線維デスミンはブタ卵母細胞の表層で起こる減数分裂の進行に関与する．日本畜産学会大会（江別市），2015.

d-04. 木村　中・房家シン・鈴木裕之・松﨑正敏：新生子めん羊への初乳製剤液の追加給与がその後の増体，採食量，血中成分および臓器重量に及ぼす影響．日本畜産学会大会（江別市），2015.

f-01. 松﨑正敏：リンゴ粕を活用したアップルラム生産Ⅱ―ラム肉の食味評価成績について―．シープジャパン，92：14–15, 2014.

川崎　通夫

a-01. Islam, M.N., M. Kawasaki: Evaluation of calcium regulating roles of guttation and calcium oxalate crystals in leaf blades and petioles of hydroponically grown eddo. Plant Production Science 18: 11–21, 2015.

a-02. Iijima, M., T. Watanabe, T. Yoshida, M. Kawasaki, T. Kato, K. Yamane: Visualization of water transport into soybean nodules by Tof-SIMS cryo system. Journal of Plant Physiology 178: 64–68, 2015.

a-03. Yamaguchi, N., H. Kurosaki, M. Ishimoto, M. Kawasaki, M. Senda, T. Miyoshi: Early-maturing and chilling-tolerant soybean lines derived from crosses between Japanese and Polish cultivars. Plant Production Science 18: 234–239, 2015.

a-04. 川崎通夫・桔梗翔梧・野澤　樹・秋田祐介・長谷純宏・鳴海一成：カーボンイオンビーム照射が青森県在来の毛豆の形質に及ぼす影響．日本作物学会東北支部会報56: 61–62, 2014.

a-05. Yamaguchi, N., F. Taguchi-Shiobara, T. Sayama, M. Tomoaki, M. Kawasaki, M. Ishimoto, M. Senda: Quantitative trait loci associated with tolerance to seed cracking under chilling temperatures in soybean. Crop Science. 55: 2100–2107, 2015.

d-01. 佐々木駿・兼平沙季・川崎通夫：ナガイモ塊茎におけるアクチンフィラメントの分布特性．日本作物学会講演会（日本大学），2015.

d-02. 平岡未帆・松澤めぐみ・川崎通夫・千田峰生：プロアントシアニジン特異的染色剤を用いたダイズ種皮着色物質の組織化学的観察．東北育種研究集会（岩手大学），2014.

d-03. 川崎通夫・清藤香理：青森県屏風山地区におけるナガイモ塊茎障害部の構造と成分に関する研究．日本作物学会東北支部会講演会（岩手大学），2015.

d-04. 佐々木駿・川崎通夫：ナガイモ塊茎頂端部におけるカルシウム分布特性と重力刺激によるカルシウム分布への影響．日本作物学会講演会（信州大学），2015.

e-01. 川崎通夫：青森県在来のエダマメ・ダイズ「毛豆」における形質調査およびイオンビーム育種．地域資源利活用教育研究センター 2014年度活動報告書：10, 2015.

f-01. 川崎通夫：日本顕微鏡学会．電顕サマースクール．講演（東京慈恵会医科大学），2015.

f-02. 川崎通夫：域資源利活用教育研究センターシンポジウム．研究発表（弘前大学），2015.

f-03. 川崎通夫：「将来の気象に適応した作物の品種選抜による多収戦略」に関わる平成27年度推進会議．研究報告（酪農学園大学），2015.

f-04. 川崎通夫：河北新報．取材協力．記事掲載（2015年4月11日版）．

f-05. 川崎通夫：NHK総合テレビ〈番組名：うまいッ〉．取材協力，コンピューターグラフィックスの一部の監修および番組出演（2015年5月3日放送）．

f-06. 川崎通夫：NHKワールド〈番組名：Delicious Japan!〉．取材協力およびコンピューターグラフィックスの一部を監

修（2015年6月10日放送）.

本多　和茂

a-01. Hamano, M., K. Kato, K. Honda, T. Maeda, M. Morishita. Promotion of flowering by photoperiod treatment in six strawberry (*Fragaria*×*ananassa* Duch.) cultivars with different everbearing patterns. J. Hort. Sci. Biotech. 90(2): 157–163, 2015.

b-01. 前田智雄・嵯峨紘一・中村元彦・本多和茂・渋谷長生：津軽伝統トウガラシ「清水森ナンバ」をブランド化．特産種苗20〔特集〈とうがらし・わさび〉〕: 22–26, 2015.

d-01. 前田智雄・平川直人・平野里美・奥　聡史・本多和茂・小山内祥代・山崎　篤：青森県におけるタマネギの2月まき作型に適した品種の選定および品質関連成分含量の品種間差．園芸学会．園学研．14別1：184, 2015.

d-02. 本多和茂・菊池桃加・前田智雄：デルフィニウム属における種間雑種育成のための胚珠培養方法の改良．園芸学会．園芸研．14別2：559, 2015.

d-03. 山岸洋貴・藤原久司・本多和茂：極東アジアにおけるキケマン属植物の進化に関する研究．第79回日本植物学会大会（新潟），2015.

f-01. 清野智美・前田智雄・小山内祥代・本多和茂・丸居　篤・三浦和英：弘前大学における甘草の栽培研究に関する取り組み．甘草に関するシンポジウム2015 in 福岡 講演要旨集（九州大学）: 59–63, 2015.

f-02. 本多和茂：「花が咲くということ―弘前公園の「サクラ」について考えてみる―」（青森南高校講義），2014.

前田　智雄

a-01. Nikaido, K., T. Jishi, T. Maeda, T. Suzuki, H. Araki: Quality Change of Asparagus Spears Stored with Snow Cooling. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 83(4): 327–334, 2014.

a-02. Hamano, M., K. Kato, K. Honda, T. Maeda, M. Morishita. Promotion of flowering by photoperiod treatment in six strawberry (*Fragaria*×*ananassa* Duch.) cultivars with different everbearing patterns. J. Hort. Sci. Biotech. 90(2): 157–163, 2015.

a-03. Yamaguchi T. and T. Maeda. Effect of High-Temperature Treatments on the Breaking of Dormancy in One-Year-Old Asparagus (*Asparagus officinalis* L.). Environ. Control Biol. 53(1): 23–26, 2015.

a-04. Abe, K., S. Kido, T. Maeda, D. Kami, H. Matsuura, H. Shimura, T. Suzuki. Glucosinolate profiles in *Cardamine fauriei* and effect of light quality on glucosinolate concentration. Sci. Hort. 189: 12–16, 2015.

b-01. 前田智雄・嵯峨紘一・中村元彦・本多和茂・渋谷長生：津軽伝統トウガラシ「清水森ナンバ」をブランド化．特産種苗20〔特集〈とうがらし・わさび〉〕: 22–26, 2015.

d-01. 前田智雄・平川直人・平野里美・奥　聡史・本多和茂・小山内祥代・山崎　篤：青森県におけるタマネギ2月まき作型に適した品種の選定および品質関連成分の品種間差．園芸学会（千葉大学）．園学研．14別1：184, 2015.

d-02. 奥　聡史・前田智雄・杉山慶太・志村華子・鈴木　卓：糖高濃度添加培地で培養したタマネギ葉組織のフルクタン生合成にみられる品種間差．園芸学会（千葉大学）．園学研．14別1：187, 2015.

d-03. 元木　悟・井上勝広・飯塚明範・蕪野有貴・柘植一希・北条怜子・西原英治・前田智雄：アスパラガスにおける無機成分と生育阻害活性の部位間差．園芸学会（徳島大学）．園学研．14別2：198, 2015.

d-04. 酒井浩晃・前田智雄・菅野　明・元木　悟・山口秀和：寒冷地のアスパラガス長期どり栽培における若茎品質の雌雄間差．園芸学会（徳島大学）．園学研．14別2：471, 2015.

d-05. 奥　聡史・志村華子・上野敬司・小野寺秀一・前田智雄・実山　豊・鈴木　卓：タマネギにおけるフルクタン生合成関連遺伝子の品種間差および発現解析．園芸学会（徳島大学）．園学研．14別2：482, 2015.

d-06. 本多和茂・菊池桃加・前田智雄：デルフィニウム属における種間雑種育成のための胚珠培養方法の改良．園芸学会（徳島大学）．園学研．14別2：559, 2015.

d-07. 清野智美・前田智雄・小山内祥代・本多和茂・丸居　篤・三浦和英：弘前大学における甘草の栽培研究に関する取り組み．甘草に関するシンポジウム2015 in 福岡 講演要旨集（九州大学）: 59–63, 2015.

f-01. 前田智雄：砂丘地における高収益野菜生産．砂丘学会全国大会 シンポジウム「屏風山砂丘地農業の現状と課題」招待講演（弘前大学），2015.

叶　旭君

a-01. 叶　旭君・酒井憲司：ハイパースペクトルイメージングの農業への応用．映像情報メディア学会誌．69(5): 464–469, 2015.

a-02. Wang Q., X. Ye, J. Li, Y. Xiao, Y. He: Estimation and visualization of nitrogen content in citrus canopy based on two band vegetation index (TBVI). Spectroscopy and Spectral Analysis, 35(3): 715–718, 2015.

c-01. Ye X., Y. Shi, S. Zhang: Non-destructive prediction of hardness and carotenoid content of carrots using hyperspectral imaging. Agricultural Research Updates, Volume 12, Nova Science Publishers, USA, ISBN: 978–1–63483–967–9, 2015.

d-01. Ye X., K. Iino, S. Zhang, S. Oshita: Nondestructive monitoring of chicken meat freshness using hyperspectral imaging technology. Proceedings of IEEE 7rd Workshop on Hyperspectral Image and Signal Processing: Evolution in Remote Sensing (WHISPERS), Tokyo, 2–5 June, 2015.

d-02. 張　樹槐・石　玥・叶　旭君：分光計測に基づくニンジン内部品質の非破壊的推定に関する研究．農業環境工学関連5学会2015年合同大会（盛岡），2015.

d-03. 叶　旭君・飯野加奈子・張　樹槐：匂いセンサとハイパースペクトルカメラを利用した鶏肉鮮度の判定と可視化．農業環境工学関連5学会2015年合同大会（盛岡），2015.

d-04. 岸浪行佑・張　樹槐・叶　旭君：分光反射情報を利用した魚肉表面の清浄度予測に関する研究．農業食料工学会東北支部平成27年度支部大会（秋田），2015.

d-05. 岡本泰宏・叶　旭君・張　樹槐：分光反射情報によるアスパラガスの硬度の非破壊的予測に関する研究．農業食料工学会東北支部平成27年度支部大会（秋田），2015.

田中　紀充

d-01. 太田宇則・田中紀充・伊藤大雄・荒川　修：リンゴ培養体における倍数体獲得の効率的な培地の検討．園芸学会（千葉大学）．園学研．14別1：265, 2015.

d-02. Prompong, P.・荒川　修・菊谷　伸・盛　一真・田中紀充：Effect of blue light on anthocyanins composition in apple skin．園芸学会（千葉大学）．園学研．14別1：264, 2015.

f-01. 田中紀充：リンゴ樹における積雪負荷予測に基づいた雪害発生メカニズムの解明．東北農業試験研究推進会議果樹推進部会及び寒冷地果樹合同現地研究会．（秋田県横手市），2015.

【食農経済コース】

渋谷　長生

b-01. Shibuya, C: Sea Cucumber Farming in Japan. Nicholas Brown and Stephen Eddy『ECHINODERM AQUACULTURE』. John Wiley & Sons. Inc. Hoboken. New Jersey: 289–317, 2015.

e-01. 渋谷長生：中国での日本産ナマコ直接販売への弘前大学支援と販売の課題．平成26年度ナマコの食ブランド化推進事業『ナマコの機能性研究業務報告書』．弘前大学・青森市：51–70. 2015.

f-01. 渋谷長生：なぜ農業委員会も規制改革で矢面に立つことになったのか．あおもり農業．65(10): 98–99, 2014.

f-02. 渋谷長生：矢面に立つ農協中央会改革．あおもり農業，65(11): 82–83, 2014.

f-03. 渋谷長生：米価下落への対応を考える．あおもり農業，65(12): 88–89, 2014.

f-04. 渋谷長生：「大学教員の会」が衆議院議員選挙に際して各党へTPP問題について申し入れ．あおもり農業，66(1): 106–107, 2015.

f-05. 渋谷長生：りんごの神様を今思う．あおもり農業，66(2): 90–91, 2015.

f-06. 渋谷長生：農業の将来を考えるポイント．あおもり農業，66(3): 92–93, 2015.

f-07. 渋谷長生：農業の現場を知ろう．あおもり農業，66(4): 118–119, 2015.

f-08. 渋谷長生：農外企業の農業参入の現況はいかに．あおもり農業，66(5): 120–121, 2015.

f-09. 渋谷長生：販路開拓ができる農家とできない農家の差は何か．あおもり農業，66(6): 106–107, 2015.

f-10. 渋谷長生：今年は早くから暑い，こんな時は「ババヘラ」アイスが一番．あおもり農業，66(7): 104–105, 2015.

泉谷　眞実

a-01. 泉谷眞実・今野聖士：北海道における米ぬかの季節的な需給調整主体の存立条件．2014年度日本農業経済学会論文集：42–47, 2014.

a-02. 泉谷眞実・野中章久・金井源太・小野　洋：バイオディーゼル燃料事業における原料調達と製品利用・販売間の調整に関する考察．農業市場研究．92: 53–59, 2015.
b-01. 泉谷眞実：バイオマス静脈流通論．筑波書房, 2015.
d-01. 泉谷眞実・野中章久：農業と関連産業におけるバイオマスや食品廃棄物等の利活用のあり方と課題．東北農業経済学会50周年記念事業 東北農業･農村研究の論点を探る―未来に向けて―［第2セッション］「農業のフロンティア―高付加価値型農業と資源活用型農業―」報告（招待講演）（仙台市）, 2014.
d-02. 泉谷眞実・吉仲　怜：東北・津軽平野稲作地帯における農民層の動向．2014年度農業問題研究学会 秋季大会 個別報告（明治大学）, 2014.
d-03. 泉谷眞実・野中章久：稲わらの流通広域化事業に関する一考察：2015年度日本農業市場学会 個別報告（宇都宮大学）, 2015.
d-04. 泉谷眞実・吉仲　怜・野中章久：「耕畜連携助成」の動向と飼料用稲わら収集事業に与える影響．第51回東北農業経済学会 新潟大会 個別報告（新潟大学）, 2015.
f-01. 泉谷眞実：イネ未利用資源活用の意義．水田農業の現状に関する農業者アンケート結果報告会（つがる市）, 2014.
f-02. 泉谷眞実：バイオマス資源収集の現状と課題．第1回バイオコークス事業化推進委員会報告（黒石市）, 2015.
f-03. 泉谷眞実：農業未利用資源の活用と6次産業化．アグリカレッジ2015（弘前市）, 2015.

石塚　哉史

a-01. 石塚哉史：農産物・食品輸出戦略の現段階と課題に関する一考察．フードシステム研究．22(1)：38–43, 2015.
a-02. 高橋周世・石塚哉史：東北地方における豚肉輸出の現状と課題に関する研究．弘前大学学術報告．17：6–14, 2015.
b-01. 大島一二・菊地昌弥・石塚哉史・成田拓未：日系食品産業における中国内販戦略の転換．筑波書房：1–207, 2015.
c-01. 西尾　漠・並河信太郎・石塚哉史・真下俊樹・三浦俊彦・楠本昭夫・石田直人・小林芳郎：環境・公害と食教育．日本教職員組合編：日本の教育―第64集―（アドバンテージサーバー）：249–262, 2015.
d-01. 石塚哉史・高橋周世・松﨑正敏：食肉公社における輸出事業の現状と課題に関する一考察 ―山形県および滋賀県の事例を中心に―．地域農林経済学会大会（京都府立大学）, 2014.
d-02. 伊藤亮司・小松知未・石塚哉史・小池晴伴：産地間競争の現局面と全農系統コメ共販の課題―東日本の主要産地を中心に―．日本協同組合学会大会（愛媛大学）, 2014.
d-03. 石塚哉史：農林水産物・食品の輸出．日本フードシステム学会秋季研究会シンポジウム「食料・農業・農村基本計画の見直しにおけるフードシステムの課題」（東京大学）, 2014.
d-04. 石塚哉史：流通環境の変化に対応した卸売市場の変容―弘前地方卸売市場による独自品種の運営・管理―．JSPS日中間交流事業「高効率青果物流通第1回シンポジウム「現段階の青果物流通システムに関する日中間比較」」（東京聖栄大学）, 2014.
d-05. 石塚哉史・安川大河：日本酒製造業者における輸出マーケティングの再編 ―北東北地方の事例を中心に―．2015年度日本農業市場学会大会第1セッション「日本産加工食品の輸出に関するマーケティング戦略論による理論的・実証的研究」（宇都宮大学）, 2015.
e-01. 石塚哉史：食の問題．日本教職員組合編：2014年度母と女性教職員の会全国集会　報告集（アドバンテージサーバー）：66–69, 2014.
e-02. 石塚哉史：流通環境の変化に対応した卸売市場の変容―弘前地方卸売市場による独自品種の運営・管理―．藤島廣二・曹斌編：高効率青果物流通システムの構築に関する日中両国比較間比較研究．独立行政法人日本学術振興会・二国間交流事業共同研究平成26年度研究成果集：121–127, 2015.
e-03. 並河信太郎・山本和代・牧下圭貴・石塚哉史・藤川伸司・宇高和馬・安田晴紀・奥田　宣・鈴木詔子・黒石淳子・大野花菜・儀保君枝：日教組栄養教職員研究集会報告書：1–48, 日本教職員組合, 2015.
f-01. 石塚哉史：野菜産地における複合型地域ブランドの管理・運営に関する今日的展開 ―加賀野菜および金沢そだちの事例を中心に―．野菜情報（2014年10月号）：36–48, 2014.
f-02. 石塚哉史：グローバル体制下における東北産地域特産物の存立条件と持続的発展に関する実証的研究．平成26年度弘前大学若手・新任研究者支援事業研究成果発表会（弘前大学）, 2015.
f-03. 石塚哉史：川上村野菜販売戦略協議会による高原野菜輸出の取り組み．野菜情報（2015年5月号）：43–51, 2015.
f-04. 石塚哉史：加賀野菜によるブランド化の実践．農耕と園芸（2015年7月号）：18–23, 2015.
f-05. 石塚哉史：地域農業の可能性・課題を考える．地区公民館と弘前大学の連携事業「これからの地域農業を考える」

（弘前市立高杉公民館），2015.

f-06. 石塚哉史：日本における農産物輸出分析の現状と課題 ―対中貿易研究の今後の方向―．東北アジア農業・農村経済セミナー（新潟大学），2015.

高梨子　文恵

a-01. 高梨子文恵：農村の構造変化と『小さな協同』―農協による協同組織の育成・連携の可能性―．協同組合研究．32–1：4–11, 2014.

b-01. 高梨子文恵：ハノイ市安全野菜フードシステムにおける中間組織．秋葉まり子編著．ベトナム農村の組織と経済（弘前大学出版会）．ISDN978-907192-32-7：123–146, 2015.

c-01. 高梨子文恵：ハノイ市における安全野菜の新しい流通形態．アジ研ワールドトレンド．2015–3：14–17（アジア経済研究所），2015.

d-01. Takanashi, F.: Current status of safe vegetable food system in Hanoi, Vietnam, International Society of environmental and rural development (Bohol, Philippines), 2015.

d-02. 高梨子文恵：シンポジウム「グローバル化の進展と地域農業：その可能性を探る」コメント．食農資源経済学会（鹿児島国際大学），2015.

f-01. 高梨子文恵：協同組合組織の育成・連携の可能性 ～JAが果たす地域のきずなづくり～．JA教育文化．2015–1：16–17（一般財団法人家の光協会），2015.

武田　共治

吉仲　怜

d-01. 泉谷眞実・吉仲　怜：東北・津軽平野稲作地帯における農民層の動向．2014年度農業問題研究学会 秋季大会 個別報告（明治大学），2014.

d-02. 小松知未・棚橋知春・吉仲　怜：葉たばこ生産における原子力災害の影響と放射性物質対策の特徴．日本農業経済学会 個別報告（東京農工大学），2015.

d-03. 吉仲　怜：つがる平野における水田農業の構造と担い手の現状．地域政策学会 分科会報告（明治大学），2015.

d-04. 吉仲　怜・小松知未・棚橋知春：原子力災害後の葉たばこ生産農家における経営対応の特徴．東北農業経済学会 新潟大会 個別報告（新潟大学），2015.

d-05. 泉谷眞実・吉仲　怜・野中章久：「耕畜連携助成」の動向と飼料用稲わら収集事業に与える影響．第51回東北農業経済学会 新潟大会 個別報告（新潟大学），2015.

d-06. 吉仲　怜：飼料用米利用拡大下における米生産者の経営対応の考察 ―青森県津軽平野地域を対象として―．日本農業経営学会 個別報告（北海道大学），2015.

e-01. 吉仲　怜：秋田県北部の事例をもとにした飼料用米生産の農業経営と地域社会に与える効果との比較．自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発．農林水産省委託プロジェクト研究平成26年度課題成績書：216–217, 2015.

【地域環境工学科】

泉　完

d-01. 泉　完・東　信行・丸居　篤・矢田谷健一：小型通し回遊魚の遊泳能力について―シロウオの突進速度と遊泳限界流速―．平成26年度農業農村工学会応用水理研究部会講演集：1–5, 2014.

d-02. 清水秀成・泉　完・東　信行・丸居　篤：メダカの遊泳特性に関する実験的研究，平成27年度農業農村工学会大会講演集：292–293, 2015.

d-03. 荻原雅周・丸居　篤・工藤　明・泉　完：イチゴのポット栽培実験による竹破砕物の養液栽培培地としての評価．平成27年度農業農村工学会大会講演集：344–345, 2015.

佐々木　長市

a-01. 遠藤　明・加藤千尋・佐々木長市・伊藤大雄：施肥・無施肥リンゴ園土壌の無機態窒素の浸透流出挙動．農業農村工学会論文集．82：423–431, 2014.

a-02. Haque, Md. Z., C. Sasaki, N. Matsuyama, T. Annaka, K. Sasaki: Effect of groundwater level on Cadmium uptake and yield of soybean from cadmium polluted soils, International Society of Environmental and Rural Development: 107–113, 2014.

d-01. 李　松涛・加藤千尋・佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦：カドミウム汚染畑における地下水位がダイズの生育・収量およびカドミウム吸収に及ぼす影響．平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山大学), 2015.

d-02. 佐々木喜市・佐々木長市・松山信彦・加藤千尋・范　津琿・遠藤　明：混層耕による水稲のカドミウム吸収抑制対策に関する研究．平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山大学), 2015.

檜垣　大助

a-01. 檜垣大助・林　一成・濱崎英作・（公社）日本地すべり学会河川砂防技術研究開発実施チーム・蒲原潤一：日本地すべり学会による国土交通省河川砂防技術研究開発課題の実施―地震による斜面変動発生危険地域表評価手法の開発―．日本地すべり学会誌．52：37–44, 2015.

a-02. 林　一成・濱崎英作・八木浩司・檜垣大助：バッファ移動解析と過誤確率分析法を用いた地震地すべりの危険度評価モデルの構築．日本地すべり学会誌．52：12–18, 2015.

a-03. 佐藤　剛・林　一成・八木浩司・檜垣大助：2011年4月11日福島県浜通りの地震で引き起こされた地すべり・表層崩壊の分布特性．日本地すべり学会誌．52：32–36, 2015.

a-04. Ghimire, S. and D. Higaki: Dynamic river morphology due to land use change and erosion mitigation measures in a degrading catchment in the Siwalik Hills, Nepal, International Journal of River Basin Management. 13: 27–39, Tayler and Francis DOI: 10.1080/15715124.2014.963860, 2014.

d-01. Ghimire, S., D. Higaki, N. Koiwa, M. Kasai, T. Bhattarai, K. Karki: Assessment of soil erosion and flood control measures in a small Siwalik Hill catchment of Nepal Himalaya, Interpraevent, Nara, 2014.

d-02. 檜垣大助・小岩直人・S. Ghimire・葛西未央：ネパールトリスリ郡のJICAプロジェクトモデルサイトにおける土壌侵食防止対策箇所15年間の変化．平成26年度東北地理学会秋季学術大会（仙台市), 2014.

d-03. 檜垣大助：山岳発展登場国の土砂災害防災技術協力上の視点―ヒマラヤ地域の事例―．日本地すべり学会研究発表会（山形市), 2015.

d-04. 檜垣大助・熊谷直矢：白神山地の地すべり変動への河川侵食の影響，平成26年度白神研究会研究発表会（弘前市), 2015.

藤崎　浩幸

a-01. 方　琳・山本信次・山本清龍・藤崎浩幸：中国における三農問題解決のための農家楽の可能性と課題―浙江省杭州市桐廬県を事例とする質的調査から―．日本森林学会誌．97–2：115–122, 2015.

遠藤　明

a-01. Endo, A. and D.J. Kang: Salt removal from salt-damaged agricultural land using the scraping method combined with natural rainfall in the Tohoku district, Japan, Geoderma Regional. 4: 66–72, 2015.

a-02. 遠藤　明・加藤千尋・佐々木長市・伊藤大雄：施肥・無施肥リンゴ園土壌の無機態窒素の浸透流出挙動．農業農村工学会論文集．294：423–431, 2014.

d-01. 佐々木喜市・佐々木長市・松山信彦・加藤千尋・範　津琿・遠藤　明：混層耕による水稲のカドミウム吸収抑制対策に関する研究，平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山大学），2015.
d-02. 遠藤　明・加藤千尋・佐々木長市・伊藤大雄：施肥・無施肥リンゴ園土壌における無機態窒素の浸透流出挙動．平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山大学），2015.
d-03. 遠藤　明・須郷朔也・清藤香理・古川達也・虻川雄介：青森県屏風山地域のナガイモ作付圃場における土壌水分移動の特徴．日本砂丘学会全国大会（弘前大学），2015.
d-04. 須郷朔也・遠藤　明・清藤香理・古川達也・虻川雄介：青森県屏風山地域のナガイモ作付圃場における土壌理化学性の特徴．日本砂丘学会全国大会（弘前大学），2015.
d-05. 遠藤　明・大和山真一・上平章弘・杉山憲雄：青森県上北地域におけるナガイモ畑圃場の土壌物理性と水分移動の特徴．平成26年度農業農村工学会東北支部宮城大会（仙台市），2014.
d-06. 穂積若菜・細田正洋・赤田尚史・遠藤　明・岩岡和輝・床次眞司：福島第一原子力発電所事故による一般家屋住民の外部被ばく線量低減に関する基礎的検討．日本放射線影響学会大会（鹿児島市），2014.

加藤　幸

a-01. 千葉克己・冠　秀昭・加藤　幸：津波被災農地の復旧に貢献する農業土木技術．土壌の物理性．129：3–18, 2015.
a-02. 千葉克己・郷古雅春・冠　秀昭・加藤　幸・加藤　徹：津波被災農地における縦浸透除塩の効果検証および地下水モニタリング．水利科学．340：121–142, 2014.
d-01. 加藤　幸：降雪形態がリンゴ園地の地温分布に及ぼす影響．平成27年度農業農村工学会大会要旨集CD（岡山大学），2015.
d-02. 千葉克己・郷古雅春・加藤　幸・冠　秀昭・富樫千之：津波被災農地における地下水の電気伝導度の変化．平成27年度農業農村工学会大会要旨集CD（岡山大学），2015.
d-03. 加藤　幸・伊東竜太・溝口　勝：園地モニタリングによる転作ブドウ園の灌漑排水対策の検討．土壌物理学会2014大会要旨集（仙台市）：37–39, 2014.
d-04. 加藤　幸・溝口　勝：生産現場における伝統的天候予測方法の現状と課題．平成27年度農業農村工学会東北支部大会講演要旨集（仙台市）：8–9. 2014.
d-05. 佐藤瑞紀・加藤　幸：弘前市におけると除排雪の実状と冬の厳しさ指数を利用したコスト予測．平成27年度農業農村工学会東北支部大会講演要旨集（仙台市）：10–11, 2014.

丸居　篤

a-01. Z. Furukawa, N. Yasufuku, K. Omine, A. Marui, B. Mandakh, I. Tuvsintogotokh, R. Kameoka: Conditions of Developed Greening Soil Materials (GSM) for Survive of Licorice and Combating Desertification. Proceedings of The 6th Japan-China Geotechnical Symposium: 25–29 (DOI: http://doi.org/10.3208/jgssp.JPN-33), 2015.
a-02. 古川全太郎・安福規之・大嶺　聖・丸居　篤・亀岡　廉：緑化土質材料内の水分環境及び化学的環境が薬用植物「カンゾウ」種子の発芽に与える効果．環境地盤工学シンポジウム発表論文集：57–60, 2015.
a-03. 安福規之・古川全太郎・亀岡　廉・大嶺　聖・丸居　篤・I. Tuvsintogotokh・B. Mandakh：稀少薬用植物「甘草」を用いた小規模地盤改良による乾燥地緑化に向けて．第7回甘草に関するシンポジウム講演要旨集：53–59, 2015.
d-01. 工藤　明・丸居　篤・岩田大明：農業用水の取水が河川水環境に及ぼす影響について．農業農村工学会大会東北支部第56回研究発表会要旨集：156–159, 2014.
d-02. 清水秀成・泉　完・東　信行・丸居　篤：メダカの遊泳特性に関する実験的研究．平成27年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集：292–293, 2015.
d-03. 荻原雅周・丸居　篤・工藤　明・泉　完：イチゴのポット栽培実験による竹破砕物養液地として評価．平成27年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集：344–345, 2015.
d-04. 菊池　勇・工藤　明・丸居　篤：白神山地における降雨特性と流入負荷量について．平成27年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集：592–593, 2015.

森　洋

d-01. 原島　実・森　洋・新井曜子・竹田哲夫：地震観測記録に基づく鋼管矢板井筒基礎の振動特性検討．第34回地震工学研究発表会講演論文集（土木学会）．講演番号C24-654, 2014.
d-02. 森　洋：農業用ため池堤体点検に関わる安定性評価．第57回農業農村工学会東北支部研究発表会：76–77, 2014.
d-03. 森　洋：ため池堤体を対象としたレベル2地震動の液状化解析．平成27年度農業農村工学会大会講演会：834–835, 2015.

加藤　千尋

a-01. 加藤千尋・西村　拓：農地土壌水分状態予測に向けたGCM予測値の時間ダウンスケーリング手法の検討．農業農村工学会論文集．295：11–19, 2015.

a-02. 遠藤　明・加藤千尋・佐々木長市・伊藤大雄：施肥・無施肥リンゴ園土壌の無機態窒素の浸透流出挙動．農業農村工学会論文集．82：423–431, 2014.

d-01. 加藤千尋・西村　拓：土壌データベースを用いた農地土壌水分・温度状態の広域予測に関する研究．2014年度土壌物理学会大会（宮城大学）, 2014.

d-02. Kato, C., T. Nishimura: Predicting Soil Moisture in Arable Land under Climate Change in Japan. ASA-SSSA-CSSA International Annual Meeting. California, 2014.

d-03. 李　松涛・加藤千尋・佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦：カドミウム汚染畑における地下水位がダイズの生育・収量およびカドミウム吸収に及ぼす影響．平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山大学）, 2015.

d-04. 佐々木喜市・佐々木長市・松山信彦・加藤千尋・范　津琿・遠藤　明：混層耕による水稲のカドミウム吸収抑制対策に関する研究．平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山大学）, 2015.

f-01. 坂井　勝・溝口　勝・加藤千尋・廣住豊一：ドロえもん博士の土はマジシャン！．ムシテックワールド特別実験講座（須賀川市ムシテックワールド）, 2015.

f-02. 坂井　勝・溝口　勝・加藤千尋・廣住豊一：環境を守る土の力～セシウムに対する土の働き～．教員のための博物館の日　こどもが喜ぶ授業作り（須賀川市ムシテックワールド）, 2015.

f-03. 土壌物理研究部会：科学館における復興農学のアウトリーチ活動 ―放射線教育の実験教室および教員向けセミナー ―．水土の知．83(9)：792–793, 2015.

鄒　青穎

a-01. Tsou, C.-Y., M. Chigira, Y. Matsushi, S.-C. Chen: Deep-seated gravitational slope deformation of mountain slopes caused by river incision in the Central Range, Taiwan: spatial distribution and geological characteristics. Engineering Geology. 196: 126–138, 2015.

a-02. Chigira, M., N. Hiraishi, C.-Y. Tsou, Y. Matsushi: Catastrophic Landslides and Their Precursory Deep-Seated Gravitational Slope Deformation Induced by the River Rejuvenation in the Kii Mountains, Central Japan. Engineering Geology for Society and Territory - Volume 2: 577–581, 2015.

d-01. Tsou, C.-Y., M. Chigira, T.-C. Ho: Gravitational slope deformation due to river rejuvenation in the Laonung River catchment, Taiwan. 10 the Asian Regional Conference of IAEG, 2015.

d-02. Matsushi, Y., M. Chigira, C.-Y. Tsou, T. Watakabe.,Y. Hirata: Mechanisms of Rainfall-induced Shallow Landslides in Hillslopes Underlain by Granite and Hornfels. 平成26年度京都大学防災研究所研究発表講演会, D13, 2015.

d-03. Tsou, C.-Y., S.-C. Chen, C.-N. Yang: The effect of step-pool development on sediment transport following blockage of a mountain gully by a landslide: An experimental study. 平成26年度京都大学防災研究所研究発表講演会, D17, 2015.

d-04. Watakabe, T., Y. Matsushi, M. Chigira, C.-Y. Tsou, T. Hirata: Soil structure and shallow landslides on hillslopes underlain by granite and hornfels. 日本地球惑星科学連合大会, 2015.

d-05. Tsou, C.-Y., M. Chigira, Y. Matsushi, S.-C. Chen: Fluvial incision history that controlled the distribution of landslides in the Central Range of Taiwan. 日本地球惑星科学連合大会, 2015.

d-06. Tsou, C.-Y., Y.-C. Wu, Z.-L. Huang: Use art to raise awareness of landslide hazard. 日本地球惑星科学連合大会, 2015.

d-07. 千木良雅弘・松四雄騎・鄒　青穎・渡壁卓磨：2014年広島豪雨による土砂災害の地質規制．自然災害研究協議会中国地区発表会, 2015.

d-08. 千木良雅弘・松四雄騎・鄒　青穎：平成26年8月広島土砂災害の実態．日本地すべり学会関西支部シンポジウム, 2015.

d-09. Tsou, C.-Y., M. Chigira, Y. Matsushi, N. Arai, S.-C. Chen, Z.-Y. Feng: Coupling Fluvial Processes and Landslide Distribution Toward Geomorphological Hazard Assessment: Cases in Tectonically Active Mountain Ranges in Taiwan and Japan, AGU Fall Meeting, 2015.

森谷　慈宙

e-01. 森谷慈宙：中水を用いた屋上緑化の灌漑計画．都市緑化技術（助成論文）. 94：18–21, 2014.

【生物共生教育研究センター】

伊藤　大雄

a-01. 遠藤　明・加藤千尋・佐々木長市・伊藤大雄：施肥・無施肥リンゴ園土壌の無機態窒素の浸透流出挙動．農業農村工学会論文集．82：423–431, 2014.

a-02. 鳥丸　猛・成田真智子・井頭千明・石田祐宣・伊藤大雄・赤田辰治：高倉森とサンスケ沢におけるブナの開花年次変動と気象要因および立地条件との相関関係．白神研究．10：11–21, 2015.

d-01. 斉藤　司・石田祐宣・伊藤大雄：ブナ林の葉群が群落内のCO_2貯留の鉛直分布に与える影響．日本農業気象学会2015年全国大会講演要旨：62, 2015.

d-02. 伊藤大雄・石田祐宣・石田　清：白神山地ブナ林の顕熱，潜熱ならびに樹幹貯熱量の実態と群落上熱収支への影響．日本農業気象学会2015年全国大会講演要旨：140, 2015.

d-03. 伊藤大雄・石田祐宣：土壌水分がリンゴ園の土壌呼吸速度に及ぼす短期的ならびに長期的な影響．農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集CD-ROM：E704, 2015.

d-04. 遠藤　明・加藤千尋・佐々木長市・伊藤大雄：施肥・無施肥リンゴ園土壌の無機態窒素の浸透流出挙動．平成27年度農業農村工学会大会講演会（岡山）, 2015.

f-01. 伊藤大雄：地球温暖化と青森県農業．弘前市農業士会総会（講演）, 2014.

f-02. 伊藤大雄：地球温暖化と青森県農業．弘前大学生涯学習教育研究センター　鶴田町講演会（講演）, 2015.

姜　東鎮

a-01. Endo, A. and D.J. Kang: Salt removal from salt-damaged agricultural land using the scraping method combined with natural rainfall in the Tohoku district, Japan. Geoderma Regional. 4: 66–72, 2015.

d-01. 姜　東鎮・磯部勝孝・肥後昌男・田副博文・細田正洋・石井康之・床次眞司・山田正俊：福島県浪江町警戒区域内におけるネピアグラスによる放射性セシウム除染．第1報　異なる栽植密度と刈取り回数による放射性セシウム除染効果．日本作物学会講演会要旨：94,（日本大学）, 2015.

f-01. 姜　東鎮：弘前大学教育学部附属小学校イネ栽培体験学習講師（田植え，収穫）, 2014.

f-02. 姜　東鎮：イネの栽培管理（田植え，収穫，脱穀・籾調整）．生物共生教育研究センター主催親子体験学習講師, 2014.

房　家琛

a-01. Fang, JC., Y. Cao, M. Matsuzaki, H. Suzuki: Effects of apple pomace proportion levels on the fermentation quality of total mixed ration silage and its digestibility, preference and ruminal fermentation in beef cows. Animal Science Journal. doi: 10.1111/asj.12410, 2015.

d-01. 鈴木裕之・塩崎洋輔・佐藤大樹・佐藤　梓・滝浦　舞・房　家琛・松﨑正敏：ブタ卵母細胞における中間径線維Neurofilament GFAPおよびNestinの分布と機能．日本畜産学会大会（宇都宮大学）, 2015.

d-02. 鈴木裕之・隅田まなみ・房　家琛・松﨑正敏：中間径線維デスミンはブタ卵母細胞の表層で起こる減数分裂の進行に関与する．日本畜産学会大会（酪農学園大学）, 2015.

d-03. 松﨑正敏・イスラムシルピー・李　美玲・房　家琛・鈴木裕之：アルコール発酵型リンゴ粕サイレージがめん羊肝臓における糖新生関連酵素の遺伝子発現に及ぼす影響．日本畜産学会大会（宇都宮市）, 2015.

d-04. 木村　中・房　家琛・鈴木裕之・松﨑正敏：新生子めん羊への初乳製剤液の追加給与がその後の増体，採食量，血中成分および臓器重量に及ぼす影響．日本畜産学会大会（江別市）, 2015.

松本　和浩

a-01. Takemura, Y., K. Kuroki, M. Jiang, K. Matsumoto, F. Tamura: Identification of the expressed protein and the impact of change in ascorbate peroxidase activity related to endodormancy breaking in Pyrus pyrifolia. Plant Physiol. Biochem. 86: 121–129, 2015.

a-02. 松本和浩：ナシ属植物の耐塩性と塩水利用の可能性．日本海水学会誌．69：14–21, 2015.

a-03. 前多隼人・田　宇・福田麻理・松本和浩：地域資源からの機能性食品素材の探索 ～果肉まで赤いリンゴや海藻～．機能性食品と薬理栄養．9(2)：1–6, 2015.

d-01. Matsumoto K, S. Sato, H. Sudo, T. Fujita, MA. Sánchez-Monedero, K. Jindo: Effect of charcoal-blended compost on the plant growth of Brassica rapa var. peruviridis for reduction of nitrogen fertilizer use. III International

Symposium on Organic Matter Management and Compost Use in Horticulture. (Murcua, Spain), 2015.

d-02. 瀧田万佑子・長田恭一・松本和浩：未熟リンゴに存在するグルコシルセラミド．日本油化学会（名古屋市），2015.

d-02. 佐々木健吾・長田恭一・松本和浩・田村文男：ナシ幼果に存在するグルコシルセラミドの解析．園芸学会秋季大会（徳島大学），2015.

d-03. 小林孝至・松本和浩・田淵俊人：ノハナショウブの変異性に関する研究（第36報）ノハナショウブの変異個体「紫アイ」に関する解剖学的研究．園芸学会秋季大会（徳島大学），2015.

d-04. 松本和浩・藤田知道・佐藤早希・五十嵐恵・初山慶道・塩崎雄之輔：果肉まで赤い新規リンゴ 'HFF33' および 'HFF60' の特性．園芸学会秋季大会（徳島大学），2015.

f-01. Matsumoto, K.: Apple breeding programs at Hirosaki University, Japan. National Postharvest Center, The Royal Government of Bhutan, 2014.

f-02. 松本和浩：果肉まで赤いリンゴ「紅の夢」．NHKおはよう日本　まちかど情報室（2014.11.29放映）．

f-03. 松本和浩・藤田知道・佐藤早希・吉仲　怜・前多隼人・上平好弘・工藤重光：ご存知ですか？　果肉まで赤い「紅の夢」！ アグリビジネス創出フェア．東京ビッグサイト，2014.

f-04. 松本和浩・藤田知道・佐藤早希・前多隼人・吉仲　怜・上平好弘・工藤重光：「紅の夢」に続いて品種登録申請中の赤い果肉のリンゴ新系統！ アグリビジネス創出フェア．東京ビッグサイト，2014.

f-05. 松本和浩：弘前大藤崎農場育成の話題の品種たち～黄色い果皮，赤肉，大型をテーマに新たな消費を喚起する～．公開講座リンゴを科学する講演（弘前市），2014.

f-06. 松本和浩：黄色い果皮，赤肉，大型をテーマにリンゴ産業に新しい風を！～弘前大藤崎農場育成の話題の品種たち～．全国コーディネート活動ネットワーク会議講演（藤崎町），2014.

f-07. 松本和浩：新たな視点でリンゴ産業を活性化～弘前大藤崎農場育成の話題の品種たち～．りんご協会青年部学習会講演（藤崎町），2014.

f-08. 松本和浩：故郷の良さ，誇りを世界に発信！　～可能性を最大化し，常に理想に向けて一歩前進～．弘前市立石川中学校ふれあい授業（弘前市），2014.

f-09. 松本和浩：幸せの国へリンゴを探して　どこか懐かしさを感じる国ブータン．陸奥新報朝刊（2014.12.25版）．

f-10. 松本和浩：幸せの国へリンゴを探して　発展途上にあるブータンのリンゴ栽培．陸奥新報朝刊（2014.12.26版）．

f-11. 松本和浩：幸せの国へリンゴを探して　GNHとGNPのはざまで．陸奥新報朝刊．（2014.12.27版）．

f-12. 松本和浩：幸せの国へリンゴを探して　紅の夢の試験栽培圃場をブータンに．陸奥新報朝刊（2014.12.28版）．

f-13. 松本和浩：幸せの国へリンゴを探して　国際化と地方　共生の中に発展の鍵はないか？．陸奥新報朝刊（2014.12.29版）．

f-14. 松本和浩：生食から加工まで多彩な特徴～弘前大藤崎農場育成の話題の品種たち～．ゴールド農園リンゴの会講演（弘前市），2015.

f-15. 松本和浩：「紅の夢」赤果肉リンゴの着色管理．寒冷地果樹研究会講演（盛岡市），2015.

f-16. 松本和浩：少年よ世界をめざせ．子供たちを支援する会青少年健全育成講座集：23–30, 2015.

f-17. 松本和浩：果肉まで赤いリンゴ「紅の夢」．アグリフードエキスポ大阪（大阪市），2015.

f-18. Matsumoto, K.: Apple production in Japan. College of Natural Resources, The Royal University of Bhutan, 2015.

f-19. 松本和浩：何が儲かるのか？視点を変えて新たなリンゴ作り～弘前大藤崎農場育成の話題の品種たち～．岩木りんご研究会講演（弘前市），2015.

f-20. 松本和浩・原田寿晴：身も心も赤いりんごたち．りんご王国こうぎょくカレッジ公開収録および弘前市りんご花まつり展示（弘前市），2015.

f-21. 松本和浩：紅の夢を巡る最近の動向～弘前大藤崎農場育成の話題の品種たち～．藤崎町紅の夢研究会講演（藤崎町），2015.

f-22. 松本和浩：弘前大藤崎農場育成最先端リンゴ品種の実際．第29期リンゴ産業基幹青年研修会講演（藤崎町），2015.

農学生命科学部学術報告編集委員会

委員長：前田　智雄（園芸農学科）
黒尾　正樹（生物学科）
大町　鉄雄（分子生命科学科）
柏木　明子（生物資源学科）
藤崎　浩幸（地域環境工学科）

2016年1月22日　印刷
2016年1月29日　発行

編集兼発行者　**弘前大学農学生命科学部**
〒036-8561　弘前市文京町3

印刷所　やまと印刷株式会社
〒036-8061　弘前市神田4丁目4−5

Published by
Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University
3 Bunkyo-cho, Hirosaki-shi, Aomori-ken 036-8561, Japan
29 January 2016

Printed by
Yamato Printing Co., Ltd.
4-4-5 Kanda, Hirosaki-shi, Aomori-ken 036-8061, Japan
22 January 2016

BULLETIN OF
THE FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE, HIROSAKI UNIVERSITY

Number 18 **January, 2016**

CONTENTS

Shuichi SUGIYAMA, Nagiko TOSHIMA :
Comparison of nutritional contents of vegetables
between natural farming (AK method) and conventional farming 1 (6)*

*English Summary

Asunaro Prize 2014 7

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science,
Hirosaki University, 2014 (October) — 2015 (September) 13